

2 注目のデータ

既習の計算方法を活用するのが苦手 Benesse教育研究開発センター
「小学生の計算力に関する実態調査2007」より

3 特集

新学習指導要領へのアプローチ 第4回

活用から考える授業づくり

4 インタビュー1 「活用力」育成の指導ポイント

「習得」した知識・技能を用いて
「思考」させる指導で「活用」する力が身に付く
白梅学園大子ども学部教授◎無藤 隆



8 事例1 「活用力」育成の実践

子ども同士の学び合いや既習事項を活用する活動で
問題解決能力を育てる
東京都杉並区立高井戸第三小学校◎吉田映子

11 事例2 「活用力」育成の実践

「使ってみようかな!」未知の問題を解決するとき
「活用力」は発揮される
山梨県甲府市立石田小学校◎早川 健

14 インタビュー2 「活用力」評価のヒントを探る

「パフォーマンス評価」によって
子どもの中に培われた思考力と表現力が見える
京大高等教育研究開発推進センター教授◎松下佳代



17 教える現場、育てる言葉

人に興味を持ち、人の話を聞くことが俳優としての第一歩
文学座附属演劇研究所

20 つながる学校と家庭の学び

実践事例 「家庭学習のてびき」や「こつくんノート」を活用し家庭学習習慣を定着させる
宮崎県宮崎市立宮崎西小学校

24 明日から使えるICT講座

第4回 情報モラル教育 メディア教育開発センター教授◎中川一史

26 低学年からの学びと指導

楽しい運動で体づくり

データで見る 子どもの「体」にまつわる危機 体力・運動能力の低下、疾病等の増大

インタビュー 「体づくり運動」で楽しみながら体の土台づくりを

山梨大教育人間科学部准教授◎中村和彦

32 Hop! Step! 小学校英語!

実践事例 あいづち表現を用いてコミュニケーションの楽しさ、大切さを体験させる
大阪府千早赤阪村立赤阪小学校◎大門賀子

38 地方分権時代の教育行政

宮城県仙台市 学力向上に向け、家庭学習ノートや教科担任制などを導入

40 編集後記

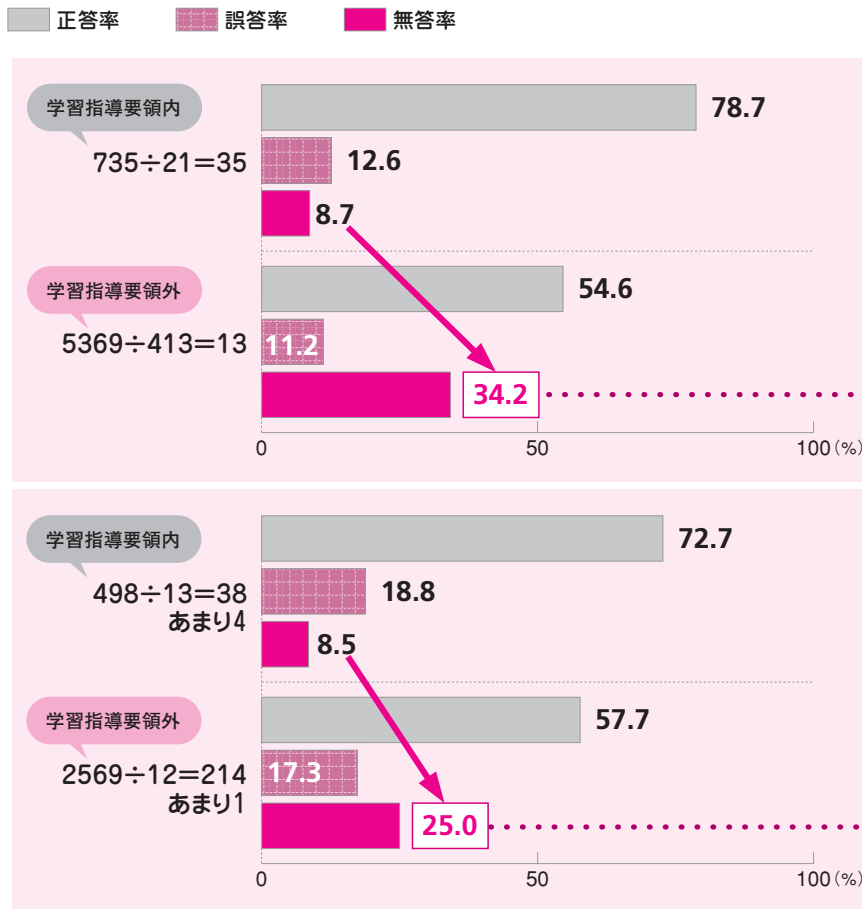
*本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。

*本誌記載の記事、写真の無断複写、複製および転載を禁じます。

既習の計算方法を活用するのが苦手

Benesse教育研究開発センター「小学生の計算力に関する実態調査2007」より

4年生の計算問題の正誤率 (調査人数: 1,346人)



学習指導要領内

学習指導要領外

無答率が
3~4倍に!

調査概要 ○調査主体/Benesse教育研究開発センター ○調査方法/学校通しによる計算力テスト・質問紙調査
○調査時期/2007年2月5日~3月1日 ○調査対象/全国の公立小学校31校の1~6年生 合計8,897人(調査対象校は無作為に抽出)



関連データの
詳細はコチラ!

<http://benesse.jp/berd/>

または で

Benesse教育研究開発センターのサイトをご覧ください
HOME > 調査・研究データ > 小学生~高校生の学力・学習について > 小学生の計算力に関する実態調査2007

※小学生の計算力については、2008年1月号「ベネッセの研究開発」でもご紹介しています。併せてご覧ください

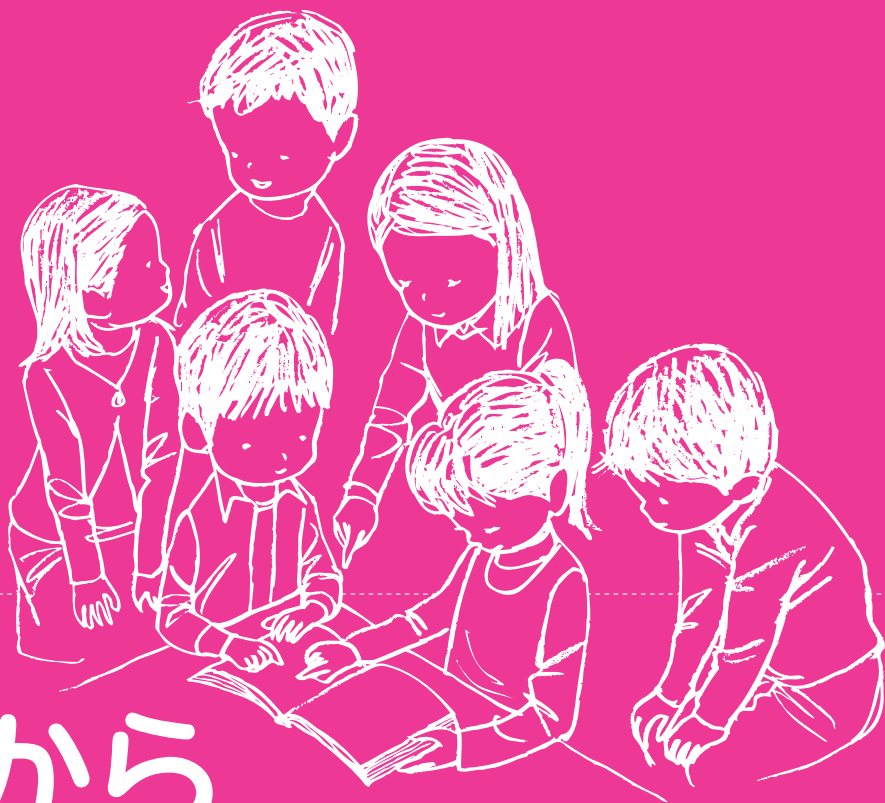
小学生の計算力についての調査から、「学習指導要領内」の問題と、やや発展的な「学習指導要領外」の問題では、無答率が大きく異なることがわかった。「挑戦して間違える」(＝誤答)率はさほど変わらないが、「手を付けない」(＝無答)率は約3~4倍に増えている。これらの計算は、既習の「学習指導要領内」の計算方法を基に考えれば決して解けない問題ではない。桁数が増えるだけで、解こうとせず、諦めてしまう児童の姿がうかがえる。

やや発展的な計算問題では
無答率が大きく上がる

特集

新学習指導要領へのアプローチ

第4回



活用から 考える 授業づくり

新学習指導要領では「習得」「活用」「探究」という3つの学習形態が重視されている。

「習得」と「活用」は各教科の指導の中で充実させることが求められているが、

「活用」という言葉には多くの教師が戸惑いを感じているようだ。

「活用」とは何を指すのか、また「活用」する力をどのようにして測ればよいのか。

活用を意識した授業の事例と、研究者へのQ&Aから

子どもに「活用」する力を付ける授業とはどのようなものなのかを探る。

「習得」した知識・技能を用いて 「思考」させる指導で 「活用」する力が身に付く

白梅学園大子ども学部教授 無藤隆

「活用力」とは、どのような力を指すのか。どのような指導によって身に付くものなのか。漠然としていてわかりにくい「活用」「活用力」について、中央教育審議会の委員を務める白梅学園大の無藤隆教授に聞いた。

ポイント① 「活用」とは何か

Q1 「活用力」とはどのような力でしょうか

A1 一言で表せば、「身に付けたことを用いて考える力」です

「活用力」は「思考力」とほぼ同義と考えてよいでしょう。ただし、漠然とした思考は、「活用」とはいえません。「活用力」は「何かを用いて考える力」です。焦点を絞って子どもに思考させる、「思考の焦点化」を行う必要があり、教師の手立てが不可欠です。

例えば、理科では、机上の学習で身に付け

た知識・技能を用いて実験や観察を行い、思考を深めていきます。このときの思考が「活用」です。ただ実験器具を与え、「自由にしてみなさい」と言うだけでは、子どもは何を考へればよいのかわかりません。教師が実験のポイントや考える方向性を示すことよって思考が深まり、「活用力」は育つのです。

Q2 なぜ「活用」が重視されているのでしょうか

A2 国際比較などで、日本の子どもは「活用力」が弱いとわかったからです

例えば、PISA調査（注）の結果、「読

解力」の低さが浮かび上がりました。読解力は、文章から情報を引き出し、利用し、熟考するという「活用力」の一つです。今後は、知識・技能の「習得」を基本とし、「活用」「探究」を両輪としたカリキュラムが求められます。「活用力」の育成は重要ですが、活用だけに偏った授業は問題です。「習得」「探究」とのバランスを考えた指導を心がけましょう。

Q3 これまでの指導では、「活用力」は身に付いていなかったのでしょうか

A3 全体的には不十分だったといえるでしょう

これまでも、「活用力」、つまり何かを用いて考える思考力を育てる授業は行われてきました。ただ、そのような授業は教師の経験や力量によるところが大きいため、教師によるばらつきがあったと思われる。その上、教師の世代交代が進み、ベテランから若手への指導技術の継承が難しくなるという問題も生じています。

こうした課題を受け、今回の学習指導要領の改訂では、「習得」「活用」「探究」という言葉を用いて指導の大枠が示されました。どのような教師でも、子どもに「活用力」を付ける授業を同じように実践できるようにするためです。大きくは「こういう方向の授業をしてほしい」という文部科学省のメッセージと受け止めればよいでしょう。

注：経済協力開発機構（OECD）が実施する、15歳児（日本では高校1年生）を対象とした国際的な学習到達度調査。2000年に第1回の本調査を行い、以後3年ごとに実施。07年12月に結果が発表された06年調査は第3回。第1回は読解力、第2回は数学的リテラシー、第3回は科学的リテラシーを重点的に調べている

「活用」から考える授業づくり



むとう・たかし◎東京大教育学部教育心理学科卒業。同大学院教育学研究科博士課程中退後、お茶の水女子大生活科学部教授、お茶の水女子大附属小学校校長等を経て現職。専門は発達心理学、教育心理学。中央教育審議会では、初等中等教育分科会教育課程部会、小学校部会主査を務める。主著に『現場と学問のふれあうところ』教育実践の現場から立ち上がる心理学』（新曜社）、『理科大好き！の子どもを育てる』心理学・脳科学者からの提言』（編著、北大路書房）など。

A4 知識・技能を身に付けるのが「習得」、子どもが自由に課題を追究するのが「探究」です

Q4 「活用」と「習得」「探究」との違いを教えてください

ポイント② 「習得」「探究」との関係

しかし、これはあくまでも大枠です。改訂に伴い、教科書や教師用指導書には「活用力」を育む指導法が盛り込まれるでしょうが、それらは例示であり、ほんの一部にすぎません。「活用」に関する指導法は、研修会などを利用し、力のある先生の実践を見て、真似をし、自分のものにしていくことが大切です。

「活用」は、習得と探究の中間に位置し、両者をつなぐ役割があります。活用と探究の違いを簡単にいうと、「活用」では事前に教師が教えたい内容を明確に用意するのに対し、「探究」ではそれをしないと考えるください。例えば、子どもが自分の住む町について学ぼうちに、隣町に興味を持ったとします。「活用」の場合、子どもの思考を促しながら、あくまでも自分の町について学習する方向に軌道修正していく必要があります。一方、「探究」では子どもの興味を第一に考え、隣町について自由に学習させてかまいません。こうした指導上の特性から、基本的に、「活用」は教科の中で、「探究」は「総合的な学習の時間」の中で指導すると考えられます。

Q5 授業では、「習得」「活用」「探究」を明確に分けて考える必要があるのでしょうか

A5 三つは相互にかかわるため、その必要はありません

例えば、「ある知識を覚えなければ、よく考えてみると理由がわからない」ということがあります。「横浜市の人口は覚えなければ、なぜ、この地域に人口が集中しているのかはわからない」といったケースです。その理由を説明していく学習は「活用」です。そして、理由を説明して、「だから、横浜市には人口が多いのか」と理解が深まれば、同時に習得によって覚えた人口などの知識も忘れにくくなるでしょう。つまり、「活用力」を育てる過程で自然と「習得」もできているのです。

各要素を明確に分ける必要はありませんが、教師は、要素の特徴とその時間に付けたい力を確実に押さえておく必要があります。例えば、算数の時間に図形の面積を求める公式について学び、校庭に出て図形を描いて理解を深めさせるとします。その際、子どもが校庭のヒマラヤ杉に興味を示したとしましょう。「探究」の時間であれば、子どもが興味を示したことを喜び、ヒマラヤ杉について調べさせてもよいのですが、この時間はあくまでも「習得」に基づいた「活用」の時間ですから、子どもの興味を面積に向けなくてはなりません。このように、「習得」「活用」「探究」の違

図1

「活用力」を育てる授業例

	国語	社会	算数	理科
内容	文章の読み取りの学習	神奈川県的主要都市の学習	平行四辺形の公式の学習	水蒸気と湯気の違いの学習
習得	初出の漢字や文法など、文章を読み取るのに必要な知識を学習する	主要都市の人口や産業など、基本情報について学習する	求積の公式「底辺×高さ」を覚える	基礎的な用語や実験器具の扱い方を学習する
活用	漢字や文法などの知識を使って文章を読ませて、内容や意図を理解させる	習得した知識の背景にある事柄を考えさせる	平行四辺形を傾けていくと面積が小さくなり、1つの辺になる。さまざまな高さの平行四辺形を見せ、「底辺×高さ」の意味を理解させる	アルコールランプを使って、ピーカーの中の水を沸騰させる実験をする
学習のポイント・効果	「『しかし』は、前に述べた内容と対立する内容を述べる前に用いる接続詞だから、この文章では逆のことを言おうとしているのだろう」などと、習得した知識を用いて、文章の内容や意図を理解していく（毎回、意識するわけではなく、無意識に知識を応用して読み取っていく場合も多い）	「横浜市や川崎市は、海辺に近く工業が盛んで、交通の便もよいため人口が集中している」などと、知識の背景にある事柄を理解することにより、知識と知識が結び付き、習得した内容が強化される	単なる公式の暗記だけでは、なぜ長方形と同じく「辺×辺」ではいけないのかといった本質的なことがわからない。長方形と平行四辺形の違いを納得して初めて、平行四辺形の面積の公式が「底辺×高さ」でなくてはならないことを理解する	水蒸気と湯気の違いを視覚的・感覚的に学び、「水蒸気は気体で、湯気は液体」といった本質的なことを理解していく。例えば、ピーカーの口元に黒い紙を当て、「透明な部分（水蒸気）と、白い部分（湯気）があるのはなぜだろう」といった言葉で考える範囲を狭めて、思考を焦点化させる

いを理解することによって、授業のねらいを外すことなく、学習効果を高めることができます。

ポイント③ 「活用力」を育てる指導

Q6 「活用力」を育てるためには、どのような指導が必要でしょうか

A6 思考の土台となる習得を徹底する、思考を焦点化する指導です

細かくは学年や教科によって異なりますが、これは基本となる指導の考え方です。具体的には、図1の授業例と図2のチェックポイントを参照してください。

Q7 「活用」の指導では、必ず日常生活に結び付けたり複雑な問題を取り入れたりしなければならぬのですか

A7 日常生活に結び付けることに、固執しすぎる必要はありません

日常生活の場面や複雑な問題は、「活用」の指導に大切な視点であることは間違いありません。ただ、それらを取り入れることによって、思考の焦点がぼやける危険性がある場合は、無理に結び付けない方がよいでしょう。

例えば、電気回路の学習では、普通、乾電池と豆電球の単純な回路を使います。無理に日常生活に結び付けようとして、家の配線を見例示すれば、複雑すぎて学習のポイントを見

失ってしまうでしょう。まずは、どのくらいレベルの思考を求めたかを考え、それに見合う程度の複雑さを備えた場面や問題を用意するとよいと思います。

Q8 「活用」の指導で陥りやすい失敗を教えてください

A8 ①習得で終わる、②子どもが実は考えていない、③全員が思考していると限らない、というケースがあります

それぞれもう少し詳しく説明します。一つめは、習得で終わってしまい、「活用」に発展しない授業です。例えば、平行四辺形の面積を求める公式を覚えさせ、ドリルの問題を解かせるだけなら「習得」です。これでは単なる暗記にとどまり、なぜ長方形と同じく「辺×辺」ではいけないのかという本質は理解できません。この状態であれば、少し複雑な文章題で平行四辺形の面積を問われ、二つの辺と高さが与えられている場合、「辺×辺」で計算する子どももいるでしょう。「活用力」を伸ばす指導では、さまざまな高さの平行四辺形を見せて長方形との違いを視覚的に学ばせるなど、十分に思考させる必要があります。

二つめは、子どもが考えているようで、実際は考えていない場合です。教師が「考えなさい」と指示し、子どもが「うーん」とうなっているからといって、必ずしも考えている

「活用」から考える授業づくり

図2 「活用力」を育てる授業5つのチェックポイント

✓ 前提となる知識・技能はしっかりと習得されているか

土台となる知識・技能が身に付いていなければ、考えることはできない。あらかじめ、思考に用いる知識・技術を学習させることが大切

✓ 思考に必要なヒントや道筋は与えたか

「考えなさい」と言うだけでは、子どもの思考は動き始めない。思考のためのヒントや方向性を与えることが不可欠

✓ 子どもの思考の焦点は絞れているか

発言やノートへの記述から、教師が求める答えに向かって適切な思考の過程を踏んでいるかを確認する

✓ 教師が一方向的に正解を与えるのではなく、子どもの思考を生かして授業を組み立てているか

授業を都合よく展開させるために、子どもが考える前に教師が正解を与えるような授業では「活用力」は育たない。子どもの発言をこまめに取り上げて、一人ひとりの思考によって授業が進んでいるという流れをつくる

✓ 一部の子どもではなく、全員が思考しているか

子どもの思考の深さや速さは一人ひとり異なる。思考がなかなか進まない子どもには、ヒントを与えるなどして思考を促す。だれかが答えを出した時点で次に進むのではなく、皆が十分に思考する時間を与える

とは限りません。何もない状態で「考える」と言われたら、大人でも困ってしまいます。考えるヒントや方向性を与えられて初めて、子どもの思考は動き始めます。それが繰り返して述べている、「思考の焦点化」です。

三つめは、1人の子どもが答えを出したら、次に進んでしまうケースです。子どもによって思考の深さや速さが異なるのはいうまでもありません。だれかが答えに到達した時点で考えるのをやめさせたら、大部分の子どもは思考が不十分なまま終わってしまいます。「活用」の指導で重要なのは、答えよりも、そこに至るまでの思考です。皆が思考の過程を説明できるようにするまで、時間をかけて考えさせましょう。

A9 **Q9** 子どもに「活用力」が付いたかどうかどのように確かめればよいでしょうか
Q9 クラス単位で記述式の評価課題を実施することがお勧めです

文部科学省の「全国学力・学習状況調査」のB問題では「活用力」の一部が問われているので、ある程度は参考になります。しかし、「活用力」を問う問題は基本的に自由記述式です。採点に手間がかかり、また採点者によって採点基準が異なることがあります。「全国学力・学習状況調査」のような大規模なテストでは、客観的に「活用力」を測るのは難しく、出題は最小限にとどめられています。

一方、クラス単位であれば、自由記述のテストも十分に可能ですから、是非、積極的に

A10 Q10

2009年度からの移行措置の開始まであと少しです。どのような準備をすべきでしょうか
指導法を検討し、校内研究の計画を立てましょう

まず、2008年度中に、年間計画に基づき、各学年での「活用」に関する指導法について、具体的に検討する必要があるでしょう。これは少しでも早く始めるに越したことはありません。

「活用」に関する指導法は、先生同士で伝え合い、高めていくことが必要なので、これまで以上に校内研究が重要になります。しかし、新しい学習指導要領下では授業時数が増加しますから、事前に計画をしておかなければ、校内研究の時間を取れないおそれがあります。各校で校内研究に関して年度内に課題を明確にして、年間計画の中に盛り込む必要があるでしょう。

取り入れてください。選択式の問題の正答率は高いのに、自由記述式がまるで答えられない子どもがいるなど、「活用力」の定着の度合いがわかるでしょう。

また、従来のテストでは答案を返却して終わることが多かったのですが、「活用力」を育てるには、できる限り、答案を基に再指導することも大切です。

※「活用力」の評価方法についてはP.14を参照

子ども同士の学び合いや 既習事項を活用する活動で 問題解決能力を育てる

東京都 杉並区立高井戸第三小学校 吉田映子先生

知識や考え方の「引き出し」を増やすと共に、それらを適切に活用する力を育成する。この二つに重点を置く指導によって「活用力」は育つ、というのが吉田映子先生の考えだ。子どもが主体的に学び合う学習を取り入れるなど、授業の中で一人ひとりの思考を促し、「活用力」を高めるための工夫が随所に光る。

活用の考え方

算数で育つ「活用力」は「生きる力」につながる

「算数は、既習の内容を活用して新しい考え方を生み出す創造的な教科といえます」

吉田映子先生は、このような考えに基づいて、「活用力」を育てる指導を積極的に取り入れる。算数の知識や技能、考え方などを、吉田先生は「引き出し」と表現する。新しい問題に取り組む際、どの引き出しを開き、どのように用いるのかを自力で考える。このプロセスこそ算数における活用だと、吉田先生

は言う。

「授業では、引き出しを充実させること、それらを適切に活用する力を育てることを重視しています」

吉田先生は、算数の学習によって培われる「活用力」は教科学習だけで発揮されるとは考えていない。実社会で難しい問題に直面し、それまでに蓄えた知識や経験を駆使して解決を試みるプロセスは、算数における活用とよく似ている。算数の学習は子どもが多様な考え方を身に付ける機会にもなる、と指摘する。「最初、子どもは間違うのを恐れますが、教師が『間違っても大丈夫だよ』と言い続け



杉並区立高井戸第三小学校
吉田映子 Yoshida Eiko

3学年担任。第54回読売教育賞「算数・数学教育」部門で「1年生の算数：出会いと感動」の実践報告が最優秀賞受賞。日本数学教育学会研究部常任幹事。ハンズオン・マス研究会に所属し、実践を多数発表。次のハンズオン・マス研究会は2009年2月1日(日) 於 筑波大学附属小学校を予定。研究会のウェブサイト
<http://hanson.exblog.jp/>

ると、次第に自信を持って考えを発表するようになります。そうした雰囲気や学級に生まれると、子どもの中に、友だちの考えに興味を示し、理解しようとする姿勢が芽生えるのです」

算数を通して育つ問題解決能力や多様な考え方への理解。吉田先生は、それらが「生きる力」の土台になると考えて授業を構成している。

指導上の心がけ

自分で考え、学び合って
答えをつくり上げていく

授業で活用の指導を行うために、吉田先生が重視するのは、子どもの主体的な学び合いだ。教師が解法を提示せず、子ども自身が答えをつくり出す過程が「活用力」を培うと考えるからだ。

「子どもは自分たちが見つけた考え方を大切にします。別の場面になっても『あの方法

活用から考える授業づくり

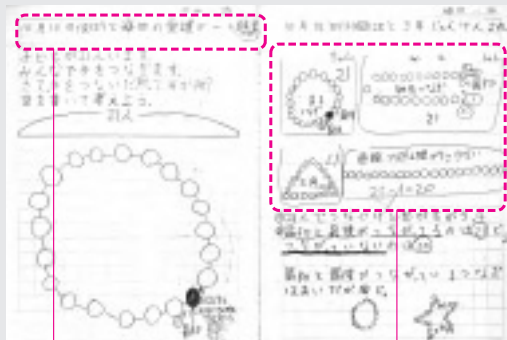
図1 活用を促すための授業の工夫

子どもへの接し方

- ・「前に習った方法で——」などと既習の内容を活用したことを口にしたときは、大げさなくらい褒める
- ・教師や友だちからの指摘に対し、「でも」「だって」などと反論を口にしたときは、思考が動き出したサイン。できるだけ、その子どもに発言させる
- ・1人の考えが出ても、ほかの子どもに考え続けさせる。「ほかの人はどう考えた？」などと、途中経過や誤った考えでもよいので発言させる

ノート指導

- ・友だちが発表した良い意見は、その子の名前と共に書き取らせる。あとで「〇〇さんの考え方を使おう」と思い出せるため
- ・紙幅が余っていても、日が改まったらページを変え、日付や天気と共に、「〇〇の日」（「目の愛護デー」「集会があった日」など）を記録させる。学んだ日を探し出しやすい

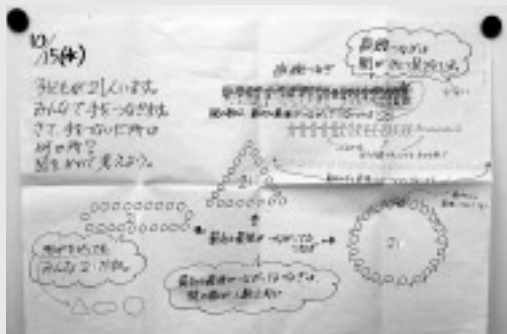


日付と共に、天気や温度、その日が何の日かを記入している

ほかの子の考えが、名前入りで書かれている

掲示物

- ・教師が板書の記録を模造紙に残して教室に掲示する。1年を通して重ねて貼っていき、過去の授業の内容を思い出させたいときにめくる。自分でノートの整理をするのが難しい低学年に特に効果的な方法だ
- ・授業中、子どもが良い方法を発表したとき、「考え方の貯金箱」などと名付けた画用紙に書き、黒板に常に貼っておく。内容は、「式で表す」「図で整理する」「大きい数は分けて考える」など



板書の記録を残した模造紙。子どもが出した「考え方」に重点を置いて整理する

「『簡単』と答えられる問題でも、『どうしてそうなるの』とあえて聞きます。子どもにも思考の過程を説明させることで、普段から考える習慣を身に付けさせるためです」

特に初めのころは、子どもが考えるのに時間がかかったとしても、教師はその時間を「待つ」ことが重要だ。ただ、子どもの考えが完全にまとまるまで待つ必要はなく、途中経過の発表を適宜挟むと効果的だと、吉田先生は

「『Aさんはこう考えているよ』『Bくんは、どこで勘違いしたのだろう』といった問いかけから、ほかの子どもの思考が引き出せます。子どもの考えを積み上げていく学習が、子ども同士の学び合いだと思います」

子どもが「活用力」を発揮する場面は、学年が上がるごとに増える。既習の内容を踏まえた学習となるからだ。つまり、学習の土台は低学年からの積み上げによってつくられる。「高学年になると自然に『活用力』が付くのではありません。低学年から『前の時間』を思い出して、『以前に似た内容を勉強したよ』などと繰り返し、自分の中の知識や考え方を使って新しい問題に対処する経験を十分に積ませることで、徐々に育つものです」

楽しみながら思考を広げる活動を取り入れる

具体的な授業例

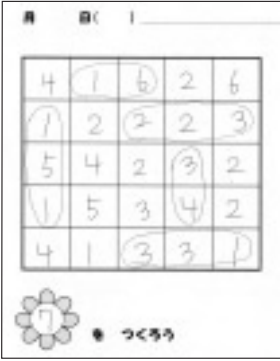
吉田先生は、子どもが楽しみながら自分で思考を広げられるように、次のような活動も多く取り入れる。

● 1年生～サイコロを使った数合わせ

数の意味と表し方を学習する活動。サイコロを振って出た数字をマス目に一つずつ書き込み、マス目が完成したら合計7になる隣り合う数字を囲む（P.10図2）。縦横の隣り合う数字だけで、斜めはだめ。ルールを変え、合計を7以外の数字にしてもよい。

この活動は、一人でじっくり取り組み、2、3枚と取り組み、

図2 数合わせ



サイコロを使った数合わせ。合計で7になる隣り合う数字を囲む。3つに並ぶ数字を足したり、L字型に足したりと、子どもの提案によってルールを柔軟に変えてもよい

高さを決め、計算をしながら設計を確定し、

一昨年に吉田先生が受け持った6年生のクラスでは、2007年にちなみ、2007cmの模型を一人ひとり作った(写真)。縦・横・高さを決め、計算をしながら設計を確定し、

じっくり型の子は1枚を仕上げると、個に応じた活動ができる。早い子に対しては、早い子同士で確かめ合いをさせたり、皆で合計の数字を変えて行ったり、6以上の数字を含むサイコロを使ったりと、応用も可能となる。

吉田先生のクラスでは、ゲーム形式で対戦する姿や、より多くの数字を囲むために「三つの数字で7にするのはよいか」「縦と横につなげるのはよいか(L字型)」など、子どもが自ら発想を広げる姿が見られた。数についての習熟になると共に、二つの数字の関係性を三つの数字の関係に広げるなど、活用を促す一例と言える。

●6年生 体積の知識を活用した模型作り

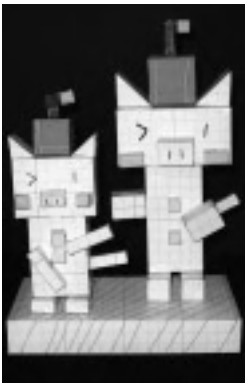


写真 6年生が体積の知識を活用して作った模型。最初に体積が2007cmになるように設計し、模型が完成したら最終確認をする。当初の計算からずれて最終調整が必要なこともあったという。例えば、写真右の「ブタ」の模型は、最終確認後にやや体積が少ないことがわかり、頭の上のリンゴの茎の長さで調整した

子どもは、こうした授業をどのように受け止めているのか。吉田先生は、子どもが算数

子どもの反応

考える楽しさを知ると
思考が動き始める

展開図を作り組み立てる。「3cm×3cm×2.3cm」の細長い直方体を作った子もいれば、いくつかの部分に分けて組み立てる子もいた。模型完成後は、子ども同士で体積がきちんと2007cmであるかを計算し合って確認する。

「紙の上での学習から一歩進んで実際に模型を作る作業を体験し、立体や体積への理解が深まりました」と吉田先生は話す。紙の無駄を減らすための展開図の効率的な書き方や、三角柱の体積の求め方など、領域を横断した活動が行えることもメリットだ。

●無藤 隆先生が見る重要ポイント

「活用力」は、たぐさんの「引き出し」を持ち、新しい問題に対してそれを使う習慣を付けていくと育つことがよくわかります。自分で考えを進め、友だちと途中経過を発表し合いながら、前に学んだことを思い出し、経験を重ねることで、新しい問題に積極的に対処できるようになります。「考えることが楽しい」、「新しい課題に取り組めるのがよい」と思える子どもが増えることは、まさに「活用力」の指導の成果です。

「7年度末に、6年生に算数の授業の感想を書かせたところ、『考えるのが楽しかった』『教科書にない課題に取り組めたのがよかった』といった声が非常に多くありました。これまでの実践で、算数を通して考える楽しさを実感できた子どもは、テストで良い結果を出すよりも、はるかに大きな充実感を得ることを確信しています」

PISA調査(注)などの結果から、子どもの思考力の低下が懸念されている。しかし、吉田先生の実践は、適切な指導を行えば、子どもが自ら思考を広げ、どんどん考えを進めていくことを示唆する。思考を促すと共に、表現の仕方を教え、そして何より考える楽しさを実感させる。そのような指導を通して、子どもたちは大きく変わるのかもしれない。

を楽しいと感じる場面は二つあるという。一つは、計算中心のテストなどで高得点を取る達成感で、内容的には主に習得に関係する。もう一つは、習得した知識の活用を通して考える楽しさを感じる場面だ。

注：経済協力開発機構(OECD)が実施する、15歳児(日本では高校1年生)を対象とした国際的な学習到達度調査。2000年に第1回の本調査を行い、以後3年ごとに実施。07年12月に結果が発表された06年調査は第3回。第1回は読解力、第2回は数学的リテラシー、第3回は科学的リテラシーを重点的に調べている

「使ってみようかな！」 未知の問題を解決するとき 「活用力」は発揮される

山梨県 甲府市立石田小学校 早川 健先生

早川健先生は、「活用」とは、先生から習い、その内容を適用して問題を解くことではなく、未知の問題解決に自分の持っているものを使ってみようとしたり、新しい算数をつくったりするときに発現するものだという。授業の中で、子どもたちが「既習の知識を活用してみたい」と思える場を仕組むヒントを探る。

活用の考え方

初めて出合った問題に
意欲を燃やす子どもを育てる

「初めて見る問題だ。でも、前に習った方法を使えば解けるかもしれない」「小数や分数の割り算でも、このきまりが使えるはずだ」
早川健先生は、算数を通して、新しい問題に主体的に取り組む姿勢を育てたいと考える。そのためには、習得した知識や技能を土台とした「活用力」が不可欠、と話す。

「既習の知識を用いて、未習の問題を解決する力。それが『活用力』だと考えます」

指導上の心がけ

「できる」だけではなく
「使う」「つくる」指導を重視

早川先生は、教師が一方的に教えるのでは



甲府市立石田小学校
早川 健 Hayakawa Ken

1学年担任。日本数学教育学会会員、全国算数授業研究会幹事。共著書に「生かす算数」(杉山吉茂編集代表「生かす算数・数学シリーズ」日本教材文化研究財団)、「少なく教えて多くを学ぶ算数指導」(杉山吉茂編著・明治図書)、「算数の力を育てる授業」(東洋館出版社)などがある。全国算数授業研究会大会、山梨県総合教育センター算数研究会などで実践を多数発表。

なく、子どもの気づきや発見を大切に、子どもの発想を生かそうと心がける。既習内容と関連して考えさせ、既習内容を生かして問題を解く力、活用する力を育もうとしている。

「算数は、教師が教えず子どもが覚える教科」だとしたら、子どもは『算数はより多くを覚えて、問題を正しく解けることが大切』ととらえるでしょう。算数にはもちろん『できる』『わかる』という習得も大切ですが、もっと重要なのは覚えた知識を生かして新たな問題解決に使ったり、新しい算数をつくったりすることです。そのためには、自分で考え自分から取り組む主体的な姿勢が必要になります」

早川先生は、授業に、「子ども自身が獲得した法則や考え方を「活用したい」と思わせる場面を設ける。授業の導入では、既習の知識を生かすことができる問題や日常生活に結び付いた問題を提示し、「考えてみたいな」と思わせる。「前に勉強した○○を使えばできそうだ」と、見通しが持てるようにして問題解決に当たらせることが大切だと考えている。

具体的な授業例

「発見」したきまりを活用し 新たな問題に挑戦する

既習の内容を活用する場面には次の二つがある。早川先生は考える。

① 「算数」をつくり出す場面

既習の内容を基にして、新たな知識を獲得し算数をつくり出す。

② 日常生活に関連する問題に取り組む場面

算数の知識や知恵を使って、日常生活に関連する問題を解決する。

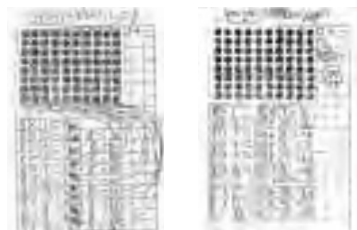
①の指導例が2年生のかけ算だ(図)。指導は、かけ算九九をつくる根拠になる「きまり」を発見する1〜5の段の前半と、それを活用して6〜9の段を「つくる」後半に分かれる。そして、並行して九九を暗記する。「教師がかけ算を一方的に教えるだけなら、子どもは受け身で暗記するだけです。そこで、みんなでかけ算九九をつくりながら、新しい段をつくるときに使える『きまり』を発見させます。そして、『次の段でもきまりを使っていこう』という気持ちを高めます。新しい段をつくる学習のときには、『見つけたきまりが新しい段でも使えるはずだ。使ってみよう』という気持ちで、自分の力でかけ算をつくる経験をさせていきます。このようにして、未習の段や大きな数の計算にも、きまりを積極的に活用していこうと取り組むようになる

かけ算(2)

6の段からまとめまで(全17時間)

指導の流れ これまでに発見したきまりを活用し、6〜9の段を自力でつくる。子どもの主体性を重視し、どのきまりを用いるかは子どもに選ばせる。その後、2桁のかけ算「 3×14 」に取り組ませ、発見したきまりを活用して大きな数のかけ算の問題解決に挑戦する。

1 発見したきまりを活用して8の段をつくる



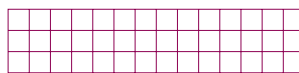
「まえたしほう」でつくった例

「だんたしほう」でつくった例

ノートにアレイ図や式を書かせて、8の段の答えを求めさせる。どのきまりを用いるかは自由。その後、どのような方法で答えを求めたかを発表させる。6、7、9の段でも同様の学習をする。

指導のポイント 1つの方法でかけ算を構成できたら、きまりを正しく使えたかどうかを確認するため、別の方法でもう一度構成する。選択したきまりが妥当であったかどうかも確かめる。

2 3×14 に挑戦する



「教室の後ろのロッカーは全部でいくつあるか、かけ算で計算してみよう」と、「 3×14 」に取り組ませる。

子どもの答え① 「まえたしほう」を活用
 $3 \times 10 = 27 + 3 = 30$ $3 \times 11 = 30 + 3 = 33$ \dots $3 \times 14 = 39 + 3 = 42$

子どもの答え②



「 3×9 」「 3×5 」に分けて考える。
 $3 \times 9 = 27$ $3 \times 5 = 15$ $27 + 15 = 42$

指導のポイント 問題を図に表して、これまでのかけ算のきまりが使えるかどうかを話し合い、問題解決にあたらせる。

授業の工夫

かけ算のきまりをいつでも活用できるようにする



教室に掲示したかけ算のきまり。その後の単元でも、かけ算を使用する機会が多いため、そのまま掲示している

見つけたきまりに名前を付ける
あるきまりに対し、アレイ図をイメージする子もいれば、式をイメージする子もいる。そこで、イメージを共通のものにするため、「まえたしほう」などと名前を付ける。

きまりを教室に掲示する
皆で発見したきまりは教室に掲示し、九九を構成したり説明したりするときに、いつでも確認できるようにする。

学習感想を書かせて思考を深める

「8の段をつくる」授業の感想例

・今日は8のだんをしました。「だんかけほう」でした。はじめてつかうからむずかしいかなと思ったけど、いがいとかんたんでした。9のだんをなんのほうほうでしょうかまよっています。

・いろんなやりかたをしました。とくに○○くんの「まえたしほう」はとてもいいと思いました。ほくも○○くんみたいにならなうたいです。

考えさせる授業をしたときには、学習感想を書かせて、その時間の思考の整理や見直しをして学習を深化させる。教師は、子どもの記述を授業評価の参考にする。学習感想の記述は、最初のうちは「楽しかった」「わかった」といった表現が多いが、「何が楽しかったの?」と教師がコメントをすることで、授業の内容や友だちの良いところなどが書けるようになる。

活用から考える授業づくり

●無藤 隆先生が見る重要ポイント

既習内容を基に、新しい考え方を考える、生活にかかわる問題を解決するのが「活用」です。前に習った方法で解けるか、別の方法を試すのかを考え、初めて見る問題に積極的にかかわるのが、まさに「活用力」です。ルールを見いだして名前を付け、掲示をし、発見した規則性を大事にし、皆で共有する早川先生の授業は、新たな問題解決に用いるための手立てとして有効だといえます。

「算数を使うと毎日がより豊かになると実感すれば、子どもは算数に強い興味を抱きます。同時に、新たな問題に直面したとき、意欲的に算数を生かそうとするでしょう。確かに、子どもにじっくり考えさせる授業は時間がかかります。しかし、そこで培われた『活用力』は、算数の学習にとどまらず、より良い人生を送るための力になるはずですよ」

②の指導は例えば次のように進める。6年生では、学習した比例の考えを活用して、ふたを開けずに箱の中のミカンの数を求めさせる。子どもは「箱の総重量を測り、1個のミカンの重さで割ればよい」「ミカンのサイズを測り、いくつ入るかを計算すればよい」といった解法を考え出す。

算数の知識を活用する指導を通して、算数は、日常生活のさまざまな場面に活用できると実感させる。

図 きまりを基にかけ算をつくり出す授業(2年生)

ねらい

- ・ かけ算の意味やきまりを基にして、かけ算を自分でつくれるようになる。
- ・ 1桁×2桁のかけ算など、九九を超えた大きな数のかけ算も、きまりを活用して解けるようになる。
- ・ 九九を忘れても、自分で答えを導き出せるようになる。

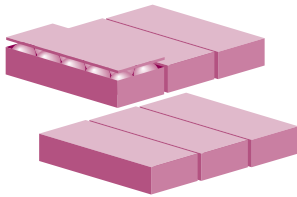
かけ算(1)

かけ算の意味から5の段まで(全23時間)

指導の流れ かけ算の意味を理解したあと、5の段までの九九の構成の学習を通して、「まえたしほう」「しきぎやくほう」「だんたしほう」というきまりを発見する。

1

かけ算の意味を教える



ものがいくつかの同じ数のまとまりに分かれている場面と、ばらばらの場面を提示して比較させる。全体数を求める際、同じ数のものがいくつかある場面では、足し算が簡単になる方法として、かけ算を教える。

指導のポイント 図のように同じ数の団子が入った複数の箱を見せ、「全部の団子の数を知るには何がわかればいいのか」と問い、「1箱当たりの団子の数」と「箱の数」が必要であることに気づかせる。かけ算をするには、「1つ分の大きさ」と「いくつ分」を知る必要があることに気づかせるために、箱にふたをして、1つだけふたを取ると中身が見えるようにするとよい。

2

まえたしほう(「前足し法」:乗数と積の関係)の発見

- 5×1=5
- 5×2=5+5=10
- 5×3=5+5+5=15
- 5×4=5+5+5+5=20
- 5×5=5+5+5+5+5=25
- 5×6=5+5+5+5+5+5=30
- 5×7=30+5=35
- 5×8=35+5=40
- 5×9=40+5=45
- 5×10=45+5=50

「たすたすほう」

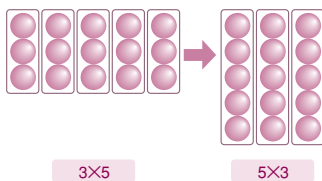
「まえたしほう」の発見

5の段をつくる学習で、かけ算の意味に基づいて5の足し算を繰り返せば、答えが求められることに気づかせる。これを「たすたすほう」などと名付ける。次に、1つずつ足していなくても、1つ前の答えに5を足せば、簡単に答えが求められることを発見させて、「まえたしほう」などと名付ける。

指導のポイント 子どもから「まえたしほう」の考えが出ない場合は、「1つずつ足すのは大変だから、もっと良い方法はないか」など思考の焦点を絞らせる。きまりの名前は子どもたちと一緒に付けていく。

3

しきぎやくほう(「式逆法」:交換法則)の発見



アレイ図や「まえたしほう」の式を基に、3の段の答えを出していく。その過程で、「3×5の答えは5×3と同じ」などと、かける数とかけられる数を逆にしても答えが等しいことに気づかせる。

指導のポイント 3×5のアレイ図を90度回転すると、5×3のアレイ図になることに気づかせる。「1つ分」と「いくつ分」が逆になるので式の意味は変わるが積は変わらない。そこで、新しい九九をつくるときに使えるきまりとする。

4

だんたしほう(「段足し法」:分配法則)の発見

かけ算九九		かける数								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
かけられる数	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
	3	3	6	9	12	15	18	21	24	27
	4	4	8	12	16	20	24	28	32	36
	5	5	10	15	20	25	30	35	40	45

1、2、3、5の段の答えを九九表に書き込み、気づいたことを話し合わせる。そして、「1の段+1の段=2の段、1の段+2の段=3の段、2の段+3の段=5の段」などとなることに気づかせる。

「4+6=10」「6+9=15」・・・という法則性から、「2の段+3の段=5の段」と気づく「だんたしほう」の発見

指導のポイント 子どもが見つけたらすぐに試すことが大切。九九表で「1の段+1の段」「1の段+4の段」と、実際に足して確認する。更に、新しい段をつくるときに使えるかを検討する。「6の段だったら」などと予想させ、「使えるぞ、使えるはずだ、使ってみよう」という気持ちを高めさせる。

「パフォーマンス評価」によって 子どもの中に培われた 思考力と表現力が見える

京都高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代

子どもに「活用力」が付いたかどうかを確かめるのは、答案の正誤を基に得点を付けることが主目的の従来型のテストでは難しい。評価方法を考えるに当たり、一つの足がかりとなりそうなのが、思考力などを測れる「パフォーマンス評価」だ。その特徴や方法について、京都大の松下佳代教授に聞いた。



まつした・かよ ◎京都大大学院教育学研究科博士後期課程単位取得退学博士（教育学）。専門は教育方法学。京都大教育学部助手、群馬大教育学部助教授等を経て、2004年から現職。著書に『パフォーマンス評価〜子どもの思考と表現を評価する〜』（日本標準）、『学びのための教師論』（共著・勁草書房）など。

Q1 「パフォーマンス評価」とは何でしょうか

A1 「パフォーマンス課題」によって学力をパフォーマンス（ふるまい）へと可視化し、学力を解釈する評価法です

その仕組みは、フィギュアスケートの評価方法と似ています。フィギュアスケートでは、専門家が実際の演技の過程を見て、一定の基準に沿って採点します。同様にパフォーマンス評価も、「パフォーマンス課題」に取り組ませることで、子どもの学力を「見える」ようにし、「ルーブリック」という評価基準を使って評価します。パフォーマンス課題は、評価したいと思う学力ができるだけ直接的に表れるものにする必要があります。

Q2 「パフォーマンス評価」の利点を教えてください

A2 従来のテストでは見えにくい「思考力」「表現力」などを具体的な表れとして見られることです

例えば、算数で、思考の過程を表現させる課題を出し、式や言葉、図、絵などさまざまな方法を用いてもよいとすれば、子どもは自分なりに考え、表現しようとしています。

パフォーマンス評価では一つとして同じ答案はなく、子どもの思考や表現は実に多様だと実感できます。子どもの思考を理解するのに役立つ、子どもは「書く」経験を積めます。

活用から考える授業づくり

答案を発表し合えば、友だちの考えへの理解や、個性の自覚にもつながります。

Q3 「思考力」や「表現力」を測る「パフォーマンス課題」で得点の高い子どもは、これらの力があるといえますか

A3 「パフォーマンス評価」は有効な方法ですが、「思考力」「表現力」を丸ごと測れるわけではありません

あくまでも一つの課題に対する結果と考えるください。「思考力」や「表現力」という力そのものを把握できる方法はないので、実際の表れ（＝答案）から、その背後にある子どもの思考や表現の特徴を把握しようと努めることが大切です。

Q4 具体的には、どのような課題を使うのでしょうか

A4 実際に使用した6年生用の「パフォーマンス課題」（図1）を見てください

この課題は「さまざまな状況の中で、問題を数学的に定式化し、解決し、解釈し、それをコミュニケーションする力」を測るために作成しました。「問題文が長いだけで、普通の文章題とあまり変わらないのでは」と思われるかもしれませんが、しかし、課題に付けた注意文では思考過程を表現するように伝え、B4判の問題用紙の約3分の2は自由記述の解答欄である点が変わります。パフォーマンス

図1 6年生向けのパフォーマンス課題と子どもの解答例

注意文

- このテストは、あなたがどのように考えたのか、その考え方の全体を調べるためのものです。
- どのように考えたのか、その考え方を、式、言葉、図、絵などを使って、わかりやすく書いてください。
- 正しい答えが出せなくても、考え方がきちんと書けていれば、点数がもらえます。しかし、答えが正しくても、考え方を書いていなければ、点数はもらえません。
- 途中でまじまじとわからないときでも、自分が考えたところまで書いてください。

【評価結果】
「分速で比べる」「3 km 1時間まで同じ速さと仮定した上で、距離（2 km）をそろえて時間を比べる」という解法が併記されている。「1分間にすすむはやさ」という表現は正しくないが、減点するほどではないと考えた。そのため、P.16図2の4つの観点すべてで最高得点の3となった

A5 Q5

問題作成の方法、注意点を教えてください

測りたい観点を考慮して問題の大枠を考え、使うことのできる表現方法や解法、課題に含まれる数値、場面設定などを検討します

評価は、短時間に多くの問題を解かせるのではなく、じっくり考えさせるテストですから、時間は20分としました。普通のテストと同時に、じっくり取り組まなくなるので、この問題だけ時間を別に確保して行いました。

図1の課題であれば、「多様な表現方法や解法を伝える」「真実味のある現実場面を題材とする」などに留意しました。

式と計算しか使わない課題では、図や表を用いて説明するのが得意な子どもには不利です。複数の解法を使えるようにし、多様な思考が表れる課題にしました。ここでは「時速や分速で比べる」「時間をそろえて距離で比べる」など、八つの解法を予想しました。数値に関しては、ただ公式に当てはめただけでは答えがきれいな数値にならないようにしました。同時に計算が難しくなりすぎない

	概念的知識	手続的知識	推論とストラテジー	コミュニケーション
観点の説明	問題が理解できている	解法の手続きを正しく実行できている	数学的に筋道だった考え方をしている	自分の考え方を数式、言葉、図、絵を使ってきちんと説明できている
レベル3	速さ・時間・距離の関係が正しく理解できている	解を導くために必要な計算が正しくできている	二つの内包量（速さ）を正しく筋道立てて比較できている	速さをどう比較したかを数式、言葉、図、絵を使ってきちんと説明できている
レベル2	a) 時間、距離に関する情報が正しく取り出せている b) 時間、距離、速さを正しく関係づけられている	a) 解を導くために必要な計算が正しくできている（分数・小数を含むかけ算・わり算の計算、単位換算など）	a) どんな量や比で比較するかを正しく選択できている b) 比較のしかたに一貫性と順序性がある手続きの結果を題意にてらして吟味できている	a) 考え方（プロセスと答え）が数式や言葉などを使ってきちんと書かれており、しかも、その根拠が十分に説明されている
	a) 時間、距離に関する情報は正しく取り出せているが、それらの関係づけに一部誤りがある b) 速さの概念に部分的な誤りや不十分さがみられる c) 時間、距離に関する情報に正しく着目しているが、見落としや誤記がある	a) 解を導くために必要な計算を行っているが、小さなミスがある b) 解を導くために必要な計算ではないが、計算そのものは正しく行われている c) 解を導くために必要な計算が部分的にしか行われていない	a) どんな量や比で比較するかを正しく選択できているが、比較のしかたに一貫性や順序性が欠けていたり、不十分さがみられる b) 手続きの結果を題意にてらして吟味していない	a) 数式と答えはきちんと書かれているが、それについての説明が不十分であるか、誤っている b) 考え方の説明に部分的な欠落がある c) 数学的言語の使い方が不十分である d) 説明部分と下書き部分がきちんと区別されていない e) 説明が途中で終わっているが、書こうとした内容が十分予想できる

実際の表は、レベルが3～0の4段階になっている。「JELS」の調査では、「計算はできるが、意味がわかっていない、などの学力の偏り」や「筋道だてて考えたり、わかりやすく伝えたりすること」を見る目的でこの4つの観点になった

ようにも注意しました。生活の中で想定しやすい場面にしたのは、そこから算数的な思考に移る過程を評価したいと考えたからです。

Q6 評価はどのような流れで行うのでしょうか

A6 パフォーマンス評価は「ルーブリック」という表を作成して行います（図2）

ルーブリックは、横軸を「観点」、縦軸を「レベル」として、観点ごとにレベルが一目でわかる評価基準表です。これを用いることにより、複数の教師で評価基準を共有できます。評価の流れは以下の通りです。

- ① 事前に予想される解法をリストアップしておく（子どもの思考が見えやすくなる）。
- ② 複数の教師（できれば3人くらい）で採点し、得点やその理由をつき合わせる。
- ③ 採点と並行して、ルーブリックの各レベルの状態を埋めていく。ある程度、採点を進めるとルーブリックがほぼでき上がるので、それを基に採点を続ける。新しい考え方が見られた場合、ルーブリックに追加する。

Q7 評価の際に気を付けるべき点を教えてください

A7 採点が目的ではなく、一人ひとりの思考過程を見ることが大切です

採点にこだわりすぎると、パフォーマンス評価のよさが失われてしまいます。例えば、

同じ得点でも解答の内容は異なりますから、単純な得点の比較に意味はありません。各観点の得点を合計すると、どの観点が弱いのが見えにくくなるので、注意してください。

Q8 学校現場でも取り入れられるのでしょうか。ポイントはありますか

A8 学校での実施は、子どもたちの経験を踏まえたパフォーマンス課題がつかれるというメリットがあります

小学校でパフォーマンス評価を行う際には、次のポイントを意識しましょう。

- ルーブリックは「A・B・Bに達していない」の3段階にするなど簡略化してもよい。
 - 担任1人ではなく、学年団などのグループで取り組む。メンバーに該当教科に詳しい教師がいるとなおよい。
 - 評価のみを目的とせず、「子どもの思考過程を理解できる」「教師の協同関係ができる」「教材や指導法の研究に役立つ」など、多様な利点があることに目を向ける。
 - 課題やルーブリックはその後も利用できる。で、経年で研究を続ける視点を持つ。
- パフォーマンス評価は手間がかかりますが、子どもにとっても教師にとっても、実りの大きい評価法です。学んだ知識を複数組み合わせるだけで有効だと思えます。是非、取り組んでみてはいかがでしょうか。

図1、2出典：『JELS～青少年期から成人期への移行についての追跡的研究～』（JELS：Japan Education Longitudinal Study）。お茶の水女子大21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学」におけるプロジェクトの1つ。松下教授は算数・数学学力調査のグループリーダーとして参加

文学座附属演劇研究所

人に興味を持ち、人の話を聞くことが 俳優としての第一歩

いい演技に求められる他人への関心

創立以来、70年以上の長きにわたって日本の演劇界をリードしてきた文学座。若手俳優の育成に力を注いできたこの劇団は、創立当時の理念を確実に継承しつつ、常に現代人の生活感情に根ざした芝居を上演し続けてきた。伝統を守りながらもいつの時代にも実力派として認められる俳優のように育ててきたのか、東京・信濃町の文学座附属演劇研究所で話を聞いた。

俳優養成は セリフ回しから始まる

文学座は、日本の近代演劇史を象徴する存在であると同時に、現在でもわが国演劇界の中枢に位置する劇団だ。加藤武、江守徹といった有名俳優を筆頭に多くの演劇人が輩出し、付属する演劇人の養成機関である文学座附属演劇研究所（以下、研究所）では、今もプロの俳優を目指す多くの若者が学ぶ。創立に際して起草された文章の中に、次のような言葉がある。「内に於いては、名実ともに現代俳優たり得る人材の出現に力を尽くしたいのであります」（1938年試演プログラムの『文学座創立について』より）。

この言葉の通り、文学座は設立の翌年に研究所を開設した。現在の研究所は本科（1年間）と研修科（2年間）に分かれており、本科の受験資格は18歳以上。例年、300名を超える受験者の中から60名が合格する。



文学座附属演劇研究所 Profile

文学座附属演劇研究所の母体である文学座は、1937年、3人の文学者、岸田国士、久保田万太郎、岩田豊雄によって設立された。文学者が設立し、文学作品を演目の中心に据えてきたことが、文学座という座名の由来だ。森本薫、三島由紀夫、有吉佐和子など国内の優れた文学者の作品を上演する一方、カミュやサルトルなどの作品にいち早く取り組みなど、前衛性の高い演目にも積極的に挑戦してきた伝統を持つ。研究所は文学座が運営する俳優養成機関。現在のように毎年研究生の募集を行う学校形式になったのは、1960年からである。

文学座代表幹事・文学座附属演劇研究所所長
成井市郎（左）

いぬい・いちろう 演出家。文学座創立メンバー。研究所所長として若手育成に尽力。

文学座附属演劇研究所主事
鶴澤秀行（右）

うざわ・ひでゆき 俳優。研究所7期卒業生。現在、後進の指導に当たっている。

合格者の平均年齢は20代前半。高校を卒業してすぐに入所する者ばかりでなく、大学生、大学中退者、社会人経験者、他劇団の経験者などが集まる。研修科に進めるのは、このうちわずか15名程度。

研修科を卒業すると、その中でさらに選抜を通った者だけが座の見習いである準座員になれる。その後、正式な座員となるにはさらに2年が必要だ。採用されるかどうかは、実力はもちろんのことながら、その時、座が必要とする個性を持っているか否かにも大きく左右される。座員になれるのはほんの一握りというわけだ。しかし、だからといって研究所を途中で去っていく者はほとんどおらず、また卒業後も演劇から遠ざかる者は少ない。研究生たちは、授業の合間を縫いながら、授業料を稼ぐため日々アルバイトに精を出している。

研究所のカリキュラムは、本科の場合、月曜から土曜まで1時間半の授業が1日に2コマずつ。授業の内容は戯曲をベースにした芝居の稽古に、体操、音楽、殺陣の

人に興味を持ち、人の話を聞くことが
俳優としての第一歩
いい演技に求められる他人への関心

稽古が週に3コマ。卒業公演を含めて年に3回の発表会を行う。研修科に上がると、週に3コマの必修科目(体操、音楽、ダンス)以外は、発表会に向けた稽古が中心で、1日6時間程度で1か月半ほど続く。発表会は年4回行われる。

稽古の中で、最も重視されるのはセリフだ。戊井市郎研究所長いわく、「文学座は文学を原点とする劇団ですから、授業では言葉、つまりセリフ回しを最も大切にします。現代人の生活感情に根ざした舞台は、リアリティのあるセリフ回しによってこそ成り立つもの。本科では、ともかく観客に伝わるセリフを舞台の上で喋れるようになることを目指します」。

文学座の座員はセリフがうまいとの評判が高く、声優としてのニーズも多いが、この点に劇団の出自が関係しているというから面白い。鶴澤秀行主事が平田オリザの言葉を借りていうには、プロレタリアート劇団として出発した劇団の場合、「セリフ中の『主張したいこと』を強調する稽古をするため、『強弱』でセリフを喋るようになる」。

一方、芸術至上主義を標榜してきた文学座の場合、日常的な、自然な口調で喋る訓練を受けるため、『高低』で喋ることになり、聞く者の耳に入りやすいのだという。研究生たちは、稽古で訛りの矯正や標準語のアクセントの習得を徹底的に指導される。自身、研究所の卒業生でもある鶴澤主事はいう。「ここまで徹底的にセリフの指導をするところは、他の劇団の研究所にはないでしょう。『へえ』という返事一つを、1日かけて指導されたこともありますよ」。

欠点を具体的に伝える 指導方法

セリフを中心にした演技の指導方法にも、文学座独特の伝統がある。

「研究所では、座学よりも実技を中心とした授業を行っています。また、指導する際にも、抽象的な論理を教えることはありません。あくまでも具体的に、例えば『腹から声を出せ』などと指導します。ただし、一つの型にはめこむために指導をするわけではありません。ともかく自由にやらせてみて、直すべきところを指摘するだけ。これは、創設以来70余年間変わらない伝統です」(戊井所長)

「演出家は、決して『こういう言い方をしろ』とはいいません。北村和夫さんがよく、『ともかくやってみてみる、言ってみる、動いてみる』とおっしゃっていました。積極的に恥をかけたというのが文学座の伝統。恥をかくことを恐れずに、自分の考えたことを演出家につけていくことが必要不可欠です」(鶴澤主事)

実際の授業風景を覗いてみると、研修科の発表会の演目である『雨空』(久保田万太郎作)の稽古が行われていた。指導に当たる戊井所長は、和服を着た一組の男女の会話の場面で、男性役者のセリフに「もつとサラリと」「自然にいつてごらん」と短い言葉で何度もやり直しをさせている。男性は、その都度少しづつ言い方を変えていく。直されなくなると、ようやく次のセリフへと進む。延々とその繰り返し。手取り足取りの指導とはほど遠く、一見、冷淡にさえ見える。

戊井所長は「演技というのは演出家にいわれた通りのことをやればいいわけではありません。自分で考えるこ

とが必要です。何度同じことをいっても、セリフ回しを含め、場面に合った演技が永遠にできない研究生もいます。そうなるのがダメなものではないえまね」と語る。

ある研究生はいう。「厳しいとは思いません。役者を目指しているのは自分ですから、やり直させられてそれをクリアできなければ、自分は役者になれないんだと思うだけです。成長するには自分で歩くしかない」。

芝居を通して 人間関係を学ぶ

鶴澤主事は、最近入所してくる若者たちの様子を見て、気にかかることがあるという。「核家族で育ったせいでしょうか、お年寄りや小さな子どもに触れずに育ってきている子が多く、全体的に、人と交わるのが苦手な子が多いようです。生身の人間に対する興味が薄い印象を受けます」。

しかし、芝居は複数の人間がつくり上げていくもの。否が応でも人と関わらなければできない。

「役者に必要なのは他人への関心ですね。舞台でも他人の演技に興味を持てなければ、いい演技はできません」(鶴澤主事)

ある研究生は、「今でも喋ることは苦手なのですが、研究所に入ってから、『相手のセリフを聞いたふりをするな。本当に聞いて、自分の言葉として本当に伝える』としつこく指導されてきました。これを舞台でやるのはまだまだ難しいのですが、少なくとも、人の話を聞くこととする努力だけはできるようになったと思います」と語る。

また、研究所に入るまで友達をほとんどつくれなかつ



たというある研究生は、当初、複数の人間と密接に関わりながら一つの芝居をつくり上げていくことが、とても苦痛だったという。

「私は不器用なので、人付き合いがなかなかうまくできないんです。でも、芝居の稽古を積んでいくうちに、あることに気付きました。それは、こちらが楽しく演じられたときは、相手役も『今日は楽しかったね』といってくれます。相手役は自分を映す鏡なんです」

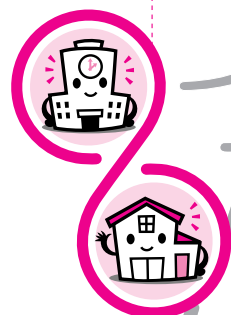
「当然ですが、他人がいてこそ芝居は成り立ちます。役者には独りよがりでない、他人を顧みることも求められるのです」(戌井所長)

最後に、戌井所長は役者に必要不可欠な資質として、「創意」と「忍耐」の二つを挙げた。

「何事もそうですが、実力というのは一朝一夕で付くものではありません。特に実力ある役者になるためには、日々の稽古がものをいいます。私自身を含め、研究所で研究生の指導に当たっている者は、常に芝居における新しい時代をつくっていくような、スター性のある新人を世に送り出すことを目標に、やりがいを感じて取り組んでいます」

プロの役者になれるのはほんの一握りかもしれないが、研究生は芝居を通して貴重な経験を積んでいる。ある研究生に、「いい役者の条件とは？」と尋ねてみると、こんな答えが返ってきた。

「芝居のうまさも大切ですが、最後は、人間的な魅力であることが分かってきました」



学校と家庭の学び

実践事例
CASE

宮崎県宮崎市立宮崎西小学校

「家庭学習のてびき」や「こつぐんノート」を活用し家庭学習習慣を定着させる

宮崎市立宮崎西小学校では、年度当初の学年懇談会で、保護者に家庭学習の重要性を説明し、1年生のときから毎日出す宿題への協力を求めている。宿題自体にも子どもが自ら取り組みたくなるような工夫をし、学力向上を図っている。

毎日1枚のプリントで家庭学習を習慣付ける

宮崎市立宮崎西小学校は、大規模な市営住宅などが建ち並ぶ、宮崎市の郊外に位置する学校だ。児童の家庭環境は多様で、家庭学習の習慣付けに保護者の協力を得るには、学校

からの積極的な働きかけが必要だ。5年生担任の岩永早苗先生は、次のように説明する。

「2002年度から3年間行ってきた『学力向上フロンティアスクール』での研究を通して、本校では『授業で発見、家庭で定着』という考えで学力向上を図っています。本校の場

図1 「こつぐんプリント」の例

◀表面

プリントの表面には、家に帰ってからすること、明日までに準備するもの、今日の反省などが書き込めるようになっている。帰りの会のときに配り、「今日やること」「明日の準備物」はその場で書き込み、あとは翌日の提出までに書き込む

裏面▶

プリントの裏面には、その日の授業の復習として、国語・算数のチェックテストを交互に出している。「こつぐんプリント」は毎朝、担任に提出。担任はその日のうちにチェックして子どもに返す

図2 「宮崎西小学校 家庭学習のてびき」



子ども用に、家庭学習で気を付けることを机の前に貼れるように1枚のプリントにまとめた。学習時間の目安と各教科の学習内容については、低学年・中学年・高学年別に示している。更に、学校での勉強に必要な事項として「学習に必要な道具」「休み時間の過ごし方」などを説明したプリントも配付する

合、5年生の通塾率は1割ほどです。保護者の理解と協力を得て家庭学習の習慣付けを図るため、さまざまな工夫をしています」

その一つが、毎日帰りの会で宿題として配付している「こつぐんブリ

ント」だ(図1)。表面には生活習慣の定着を図る項目や日記欄が、裏面には授業の復習として、漢字の練習、算数の計算問題などが印刷されている。

5年生担任の江内谷義郎先生は、

プリントの意義を次のように話す。

「毎日少しずつ取り組むことで大きく伸びる。「こつぐん」という名前には、「こつこつやって、ぐんぐん伸びよう」という意味が込められています。毎日続けられるよう、問題量は少なくして、内容を学年で統一しています。プリントは毎朝担任に提出させ、教師はその日のうちに答え合わせをし、コメントを書き添えて帰りの会で返却します」

プリントには、「明日の準備物」を記入する欄、「1日をふりかえって」として自己採点をさせる欄もある。帰りの会での配付時に注意事項を伝えながら、この欄を子ども自身に記入させることで、忘れ物防止にも役立っている。

年度当初の学年懇談会で保護者の理解を得る

「こつぐんプリント」は、9割以上の子どもが毎日きちんと提出し、未提出者は学級で1、2人にすぎない。その背景としては、「宿題は毎日出て、必ずしなければならぬ」と、年度当初に保護者にしっかりと意識付けしていることが大きいようだ。

「プリントをしてこなかったときには、昼休みに取り組ませる」というルールになっていますが、これによって年度当初の学年懇談会で保護者にも伝え、理解を得ています。そのため、昼休みに遊べなかったからといって、保護者から学校に連絡がくることはまずありません(岩永先生)

宮崎県宮崎市立宮崎西小学校

◎1975(昭和50)年に開校。宮崎市西部の大塚台団地のほぼ中央に位置する。2002年度から3年間、文部科学省「学力向上フロンティアスクール」の指定を受けたことをきっかけに、家庭学習習慣の定着に取り組んでいる。

校長 川東克己先生
児童数 501人
学級数 20学級(うち特別支援学級2)
所在地 〒880-2105 宮崎県宮崎市大塚台西2-19
TEL 0985-47-0403
URL <http://www.mcnet.ed.jp/miyazaki-nishi-s/>



宮崎市立宮崎西小学校

岩永早苗

Iwanaga Sanae

5学年担任



宮崎市立宮崎西小学校

江内谷義郎

Enaidani Yoshio

5学年担任



宮崎市立宮崎西小学校

多田 宏

Tada Hiroshi

5学年担任

更に同校では、家庭での学習の仕方を低・中・高学年別に示した「家庭学習のてびき」(P.21図2)を作成し、年度当初に配付している。

「家庭学習の時間は『学年×10分+20分』を目安にしてほしいと、このプリントに明記し、それだけは毎日家庭学習をするように、子どもを見守ってほしいと伝えていきます。また、自宅の机の前に貼れるように、A4判の大きなサイズにしています。併せて、子どもへの声かけなどの支援もお願いすることで、家庭学習の習慣付けを図っています」(岩永先生)

ポイント制でやる気を高める

5年生では、「こつぐんプリント」に加えて、「こつぐんノート」が宿題となる(図3)。これは、自分の興味・関心に合わせて、毎日ノート1ページ分の学習に取り組むというものだ。子どもは、漢字の練習、算数の計算、社会や理科の教科書のまとめなどをノートに書き込んでいく。

「家庭で『今日はこつぐん、やったの?』という言葉が自然に出るくらい、学校の宿題は必ずするものだと定着しています。『こつぐんプリント』

も『こつぐんノート』も、保護者に言われる前に取り組む子どもが多いと思います」(岩永先生)

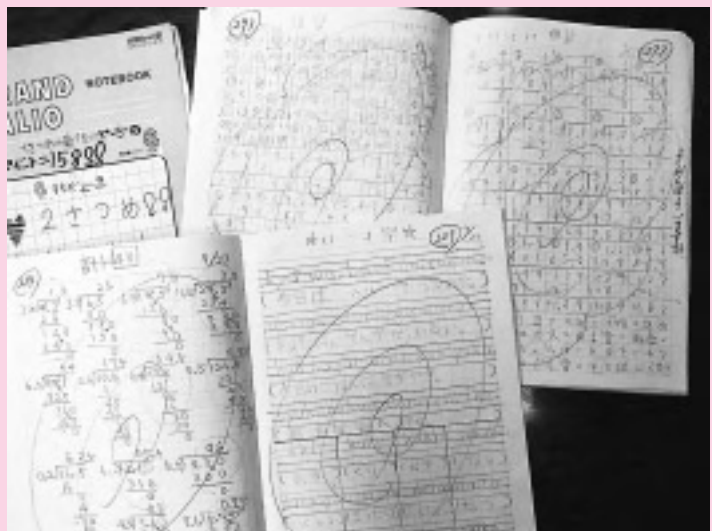
宿題というよりも自習の要素の強い「こつぐんノート」だが、ほとんどの子どもが毎日取り組んでいる。しかも、大きな文字を書いてページをとにかく埋めようという姿勢ではなく、どの子どももノートにびっしり書き込んでくる。

その理由は、「こつぐんノート」のポイント制にある(図4)。「こつぐんノート」は毎日、担任がチェックするが、学年でその基準を設けている。ノートの1ページを無駄なく使い、しかも丁寧になされているものに花丸、その次が三重丸、二重丸、一重丸と、どのように取り組んだかによって評価を変えている。花丸は4ポイント、三重丸は3ポイント、二重丸は2ポイント、一重丸は1ポイントとして、通算ポイントを毎日ノートの上部に書く。5学年担任の多田宏先生は、ポイント制は子どももよい刺激になっていると話す。

「子どもは返ってきたノートを見て、『やった。これで僕は273ポイント!』などと、友だち同士で言い合ったりしています。よい意味で競い合う場

図3 「こつぐんノート」の取り組み例

- 計算ドリル
ドリルなどの問題を解く。採点も自分でい、間違えた問題はもう一度やり直す
- 教科書の要点をまとめる
赤や青のペンを使いながら、見やすくまとめる(社会や理科の勉強にも有効)
- テストの勉強
自分で予想問題を考えて、解く
- テストの復習
テストで間違えた問題を復習する



になっっているようです」

内容が優れたノートは、学級通信で紹介する。すると、そのノートの事例を見た子どもが、自分の「こつぐんノート」にも取り入れていく。学級通信を見て、「こつぐんノート」の取り組み方が親子の話題に上ることもあるという。

ユニークなのは、「こつぐんノートパス券」の発行だ(図4)。通算ポイ

ントが50ポイントになることに発行され、1枚のパス券で「こつぐんノート」を1ページパスできる、つまり1日休むことができる。

「このパス券の制度は、子どもの学習の動機付けに抜群の効果がありません。もらってすぐに使いたがる子ばかりになるのではと思うかもしれませんが、面白いことに、パス券を使わずに枚数を集めるのを楽しみにし



ベネッセは、『学校&家庭 学び応援プロジェクト』を実施しています。

ベネッセは2007年度から「家庭学習に関する冊子」や「教育に関する情報冊子」などを先生方やご家庭に無料で提供するプロジェクト（学校&家庭 学び応援プロジェクト）を実施しております。

2009年1月は、保護者向け冊子「意欲 習慣 自立学習 家庭で楽しく！ 子どもの『土台』がぎゅつとかたまる本」、並びに、学校と家庭のコミュニケーションにご活用いただける、新1年生用「はじめてのれんらくちょう」などの申し込み受付を行います。御校の教育活動に是非お役立てください。

保護者向け冊子
「意欲 習慣 自立学習
家庭で楽しく！
子どもの『土台』が
ぎゅつとかたまる本」

詳しくは、
「VIEW21」
表紙裏面の案内を
ご覧ください。

学校&家庭 学び応援プロジェクト
ホームページ
<http://www.benesse.co.jp/manabiouen/>

ていたり、枚数を競い合うのを楽しんだりする子どももいます。子どもにとって、このパス券を手に入れることが楽しみとなっているようです」（岩永先生）

自宅学習の内容は基本的に子ども自身に任せているが、漢字の書き取りばかりが続くなど、内容に偏りが見られたときは、「次は社会に取り組んでみよう」と声をかける。多田先生は、「来週は算数の小テストをするよ」と予定を伝えて、その教科の自宅学習を促すこともあります」と話す。

一方、5年生では、国語の教科書の音読など、保護者に一律に協力を求めるような宿題は出さないように配慮しているという。

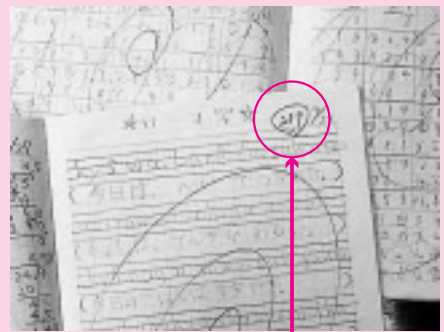
「子どもの学習に関心があっても、さまざまな事情で子どもの家庭学習や宿題にまで手をかける余裕がない家庭もあります。そのため宿題は、子どもが自分だけでできることを原則にしています。まずは、どの子どもも家庭学習の習慣が身に付くように指導しています」（多田先生）

このような一連の働きかけによって、同校の保護者の家庭学習への関心は高まっている。子どもが毎日、家庭学習に取り組んでいる姿を目にする中、「家庭学習のてびき」、「こつぐんプリント」や「こつぐんノート」といったツールで、家庭学習に対する学校の姿勢が明確に示されていることが、それを支えている。さまざまな家庭環境に配慮しながら、学校主導で家庭との連携を図るヒントが、同校の取り組みにあるはずだ。

図4 「こつぐんノート」を続けさせる工夫

●取り組んだ内容に応じてポイントがたまる

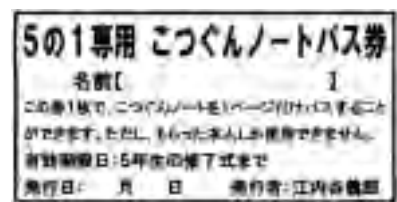
教師はノートのチェック時に、学習内容に応じて「花丸」「三重丸」「二重丸」「一重丸」を付ける。それを「花丸は4ポイント」「三重丸は3ポイント」「二重丸は2ポイント」「一重丸は1ポイント」と得点化。通算ポイントをノート上部に書き込む。「頑張ればポイントが貯まる」と、子どものやる気を引き出せる



ノートの上部に累計ポイントが書き込まれる

●ポイントがたまると「こつぐんノートパス券」がもらえる

50ポイントがたまるごとに、「こつぐんノートパス券」が1枚もらえる。このパス券を使えば、「こつぐんノート」を1日休むことができる。子どもにとっての大きな励みとなっているようだ



明日から使える ICT 講座

第4回 情報モラル教育

「人の嫌がることとはしない」
を授業で実感させる

情報モラル教育は、一言でいうと「人の嫌がることをしない」と教えることです。パソコンや携帯電話の所持・使用の規制だけでは、抜本的な解決にはなりません。これらの使用を前提とし、気持ちよく使うために何が必要かを考えるのが大切です。

授業で子ども自身が体験し、考えることで、現実の場面でも対応ができるようになるのです。授業参観の機会などを利用し、保護者も一緒に考えてもらえるとういですね。

情報モラル教育で必ず押さえない3つのテーマ

	【主旨】	【指導例】
情報リテラシー	目的に沿って適正な情報を探し、活用できる能力を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ●インターネットでの調べ学習 的確な情報を見つけるための検索方法、信憑性の確認方法を学ぶ。 ●新聞／ホームページ作成 新聞やホームページを作成する体験を通して、文章と画像の適切な組み合わせを学ぶ。同じ情報でも、視点が異なれば異なる印象の記事になることを学ぶ。
著作権	意見、文章や画像などの引用の仕方を学ぶ。情報には作成者の権利があること、それを尊重することを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ●調べ学習と著作権 調べ学習の結果をレポートにまとめるときに、自他の意見を区別する必要があること、正しい引用の仕方などを学ぶ。 ●ホームページと著作権 各自でホームページをつくって発表し合う。ほかの人のホームページを見て、写真の使用や引用の仕方は適切かをチェックする。また、引用したいと思った箇所や引用するときの注意を考える。
ルールとマナー	パソコンの画面の向こうにいる人の存在を意識し、配慮できる力を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ●メールを正しく使う 文字だけのコミュニケーションで起こりがちな誤解やトラブル、それらを防ぐために必要な配慮などを学ぶ。 ●掲示板を使う 掲示板でのやりとりを体験させる。相手を不快にさせてしまう言葉や表現、個人情報が流出してしまう怖さ、匿名の便利さとその裏にある危険を学ぶ。

活用度UP! | ワンポイントアドバイス

情報モラルの学習に役立つサイトを紹介! *08年12月現在

総務省 情報モラルICTメディアリテラシー教材

「伸ばそう ICTメディアリテラシー」

<http://www.ict-media.net/>

ブログやメール、チャットなどのやりとりを安全・リアルに体験できる「ICTシミュレーター」や指導案などが用意されています。

平成19年度文部科学省委託事業 情報モラル指導ポータルサイト

「やってみよう 情報モラル教育」

<http://kayoo.info/moral-guidebook-2007/index.html>

情報モラル教育の実践例やモデルカリキュラム、インターネットや携帯電話の利用実態調査など、すぐに役立つ情報が豊富。

文化庁

「これであなたも著作権何でも博士く学校関係者向け著作権の教育情報」

<http://www.bunka.go.jp/chosakuken/hakase/index.html>

著作権に関する学習資料やソフトをダウンロードできます。

ネットの功罪を 子どもや保護者と 共に考える

携帯電話やパソコンを通して子どもが巻き込まれる事件が頻発し、情報モラル教育の重要性が叫ばれています。一方で、子どもも社会で何が起きているのか大人には見えにくく、どのように指導したらよいかわからないという声もよく聞きます。そこで、今、情報モラル教育を行う上で押さえるべきテーマを指導例と共に紹介します。



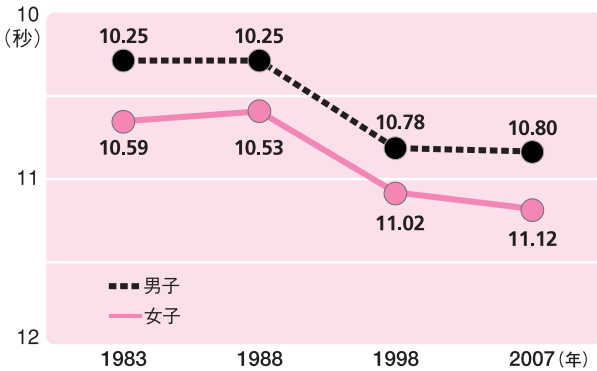
講師 中川一史先生

独立行政法人メディア教育開発センター教授。数多くの小・中学校で指導・助言を行っている。

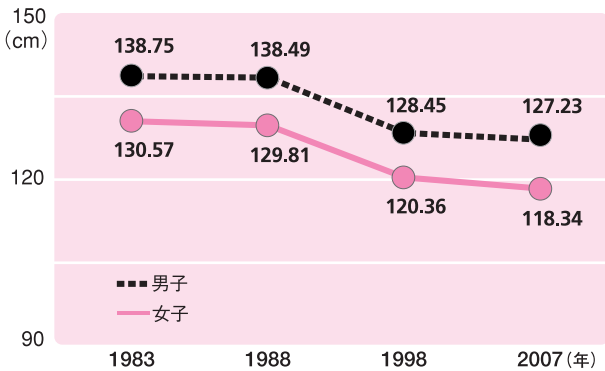
1 児童の体力・運動能力は年々低下

*データはいずれも7歳児のもの

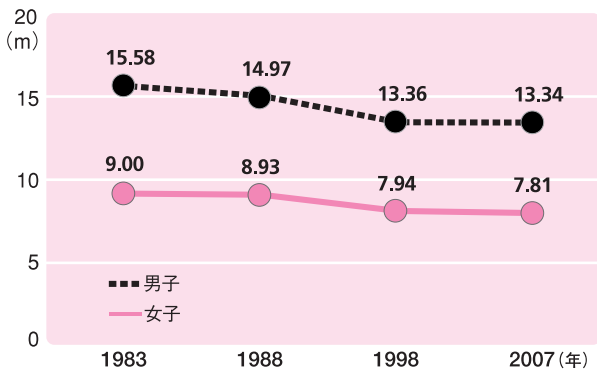
①50m走(秒)



②立ち幅跳び(cm)



③ソフトボール投げ(m)



データで見る

子どもの「体」にまつわる危機 体力・運動能力の低下、疾病等の増大

低学年からの学びと指導

楽しい運動で体づくり

今回の学習指導要領改訂の基本的な考え方には、「豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実」が挙げられている。決して芳しいとはいえない子どもの「体」や「体力」についての実態を整理し、学校に求められる指導について考える。

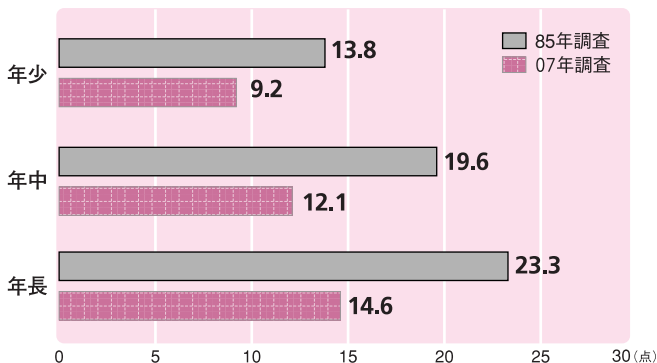
子どもの体や体力の実態を見てみよう。**①**は7歳児の50メートル走、立ち幅跳び、ソフトボール投げの基本的な運動能力を示す項目で、男女共に年々能力が低下していることがわかる。親世代の約30年前と比べると、子どもの体格は向上している**②**。体格が良くなれば体力・運動能力も合わせて向上すると考えられるが、体力・運動能力は体格の向上に伴っていない。

日本の子どもの運動量の少なさがわかるのが**③**だ。7割近くの児童は授業以外で、「活動的な身体活動」を週1回以下しか行っていない。他国との比較では、日本は最低水準だ。

④を見ると、運動量の少なさに加え、運動動作そのものを正しくできない子どもが増えている。2007年の幼稚園年長児の「14.6」点は、85年の年中児の「19.6」点よりも低

4 正しい運動動作が できなくなっている

動作発達得点(35点満点)の平均値(幼稚園男子)



※「疾走動作」「跳躍動作」「投球動作」「捕球動作」「まりつき動作」「前転動作」「平均歩行動作」の各動作について、動作の正しさを5パターンに分け、スコア化したものを合計した得点。点数が高いほど、正しい動作ができていることになる

2 親世代より体格は向上 運動能力、体力は低下

①11歳男子の身長、体重の推移

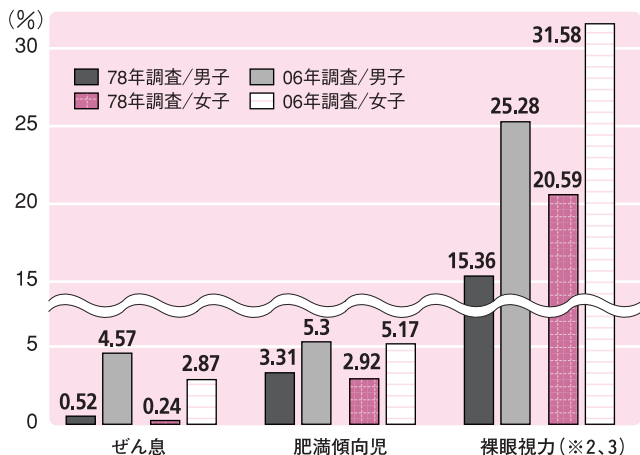
	1978年	2007年	増減
身長(cm)	142.4	145.1	+2.7
体重(kg)	35.6	38.7	+3.1

②11歳男子の運動能力、体力の推移

	1978年	2007年	増減
50m走(秒)	8.81	8.91	+0.1
ソフトボール投げ(m)	34.41	29.95	-4.46
握力(kg)	21.27	20.33	-0.94

5 視力は低下 ぜん息・肥満児割合は増大

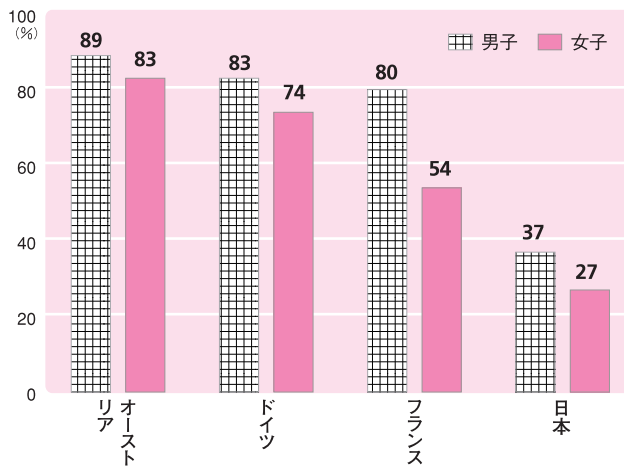
7歳男女(※1)に占める疾病等、肥満傾向児の出現割合



※1 裸眼視力とぜん息は小学生男子、小学生女子全体に占める割合
※2 裸眼視力で、1.0未満の児童の割合 ※3 視力のみ1979年と2006年との比較

3 各国の中で 運動量は最低レベル

11歳児の「活動的な身体活動」(※)週2回以上実施者の割合



※「息が切れて汗をかくような活発な運動強度」「ややきつい運動」を指す。学校の授業は除き、部活動は含める

4 出典

中村和彦他(2008)「今日における幼児の基本的動作の発達」『日本発育発達学会第6回大会プログラム』
◎調査時期:1985年10月、2007年10月
◎調査対象:関東地域内の保育所に所属する3歳児から5歳児までの幼児800名

5 出典

文部科学省「平成18年度 学校保健統計調査報告書」
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/index03.htm
◎調査時期:2006年4月1日~6月30日
◎調査対象(小学生):全国の小学校のうち、文部科学省が指定した調査実施校2,820校。「発育状態」(身長、体重)については、小学生270,720人、「健康状態」(疾病等)については、小学生1,343,375人が対象者数

1,2 出典

文部科学省「平成19年度 体力・運動能力調査報告書」
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/index22.htm
◎調査時期(小学生):2007年5~7月
◎調査対象(小学生):全国の公立小学校全学年(6~11歳)の男女児童13,520人。各都道府県より3校を無作為抽出。各校内で、各学年16標本を抽出

3 出典

SSF笹川スポーツ財団「青少年のスポーツライフ・データ 2002」
◎調査時期:2001年10月18日~11月4日
◎調査対象:全国の市区町村に在住する10~19歳1,358人。
※図の国際比較は、2000年に報告されたWHO「Health and Health Behavior among Young People」との対応によりなされている

い。現在の幼稚園年長児は、約20年前の年中児よりも正しい運動動作ができていないのである。健康状態についても、この約30年の変容は大きい。ぜん息、肥満傾向児の割合が増え、裸眼視力1.0未満の児童は約1.5倍に増えた(5)。以上のように、子どもの体力や健康について過去と比較すると、多くの課題が見えてくる。次ページからは、このような実態の背景と、事態改善のために学校では何ができるのか、山梨大准教授の中村和彦先生にお話をうかがった。

インタビュー

山梨大教育人間科学部准教授 中村和彦 「体づくり運動」で 楽しみながら体の土台づくりを

〈体力・運動能力低下の背景〉
運動量の減少、食生活の変化、
生活習慣の乱れ

前ページからもわかるように、日本の子どもの体力・運動能力の低下は深刻な状況です。例えば、今の子どもが大人になったとき、通勤電車で30分以上吊り革につかまって立っていることができなくなるだろうと、私はみています。子どもの体力の低下が、日本の社会を支える力の低下をもたらすとまでいわれるほどです。なぜ、このようなことになったのでしょうか。

第一の理由に、運動量の減少が挙げられます。20年ほど前までは、放課後に子どもが大勢で外遊びをする光景が普通に見られました。子どもは、鬼ごっこ、缶蹴り、縄跳び、野球など、さまざまな外遊びを通して、運動能力や体力、体の動きをコントロールする能力を身に付けていました。大勢で遊ぶことによって、情緒や社会性、知恵なども育むことができました。しかし、今では、子どもが集団で外遊びをする姿をほとんど見かけません。

第二に、食生活の変化です。米と魚や肉類、海藻類や豆類、野菜のおかずといったバランスのよい日本の食事を多く使った食事へと変わっていききました。家族みんながそろって食事をするのではなく、弁当やファストフードを買ってきて、それぞれ好きなものを家族がばらばらに食べる「個食」も増えています。

第三に、生活習慣の乱れが深刻です。子どもは、テレビやゲーム漬けになっていたり、夜型の生活に傾いたりしています。これらは睡眠不足につながるだけでなく、生活のリズムを狂わせ、成長ホルモンの分泌を悪くしたり、集中力を低下させ疲れやすくなったりといった現象も引き起こしています。

今の大人は子ども時代に「よく遊び、よく食べ、よく寝る」といったきちんとした育ちの時期を過ごしてきました。つまり、体の土台をしっかりつくることのできていたのです。ですから、今はファストフードを食べ、夜型生活でも大丈夫なのです。しかし、今の子どもは体づくりの

なかむら・かずひこ

山梨大教育学部卒業、筑波大学院体育科研究科修了。専門は発育発達学、運動発達学、健康教育学。文部科学省、(財)日本体育協会、(財)日本オリンピック委員会、(財)日本レクリエーション協会等において、子どもの運動発達、体力向上に関する各種委員を務める。主な著書に『子どものからだに危険ない！～今日からできるからだづくり～』(日本標準)ほか。



山梨大教育人間科学部
准教授
中村和彦

土台となる育ちの時期そのものが崩れていきます。このままでは、成長しても今の大人と同じような体にはならないのです。

〈学習指導要領改訂のポイント〉 低学年から導入される 体づくり運動

体力低下等の現状を踏まえ改訂された新学習指導要領が、2008年3月に告示されました(図1)。低学年についての大きな改訂点は、「体づくり運動」の導入です。体力低下と聞くと、「筋力や持久力を付けさせなければ」と考えるかもしれませんが、そうではなく、発達段階に応じた指導が必要なのです。さまざまな基礎的な動きを身に付けるといふ観点から、低学年から「体づくり運動」(図2)が規定されました。

幼児期から小学校中学年までは、さまざまな基礎的な体の動きを身に付けるのに適した時期です。特に、低学年までの間に「走る」「跳ぶ」「投げる」「捕る」などいろいろな動きを体験しながら身に付けておくことで、「ボールを遠くに投げる」「ボールをドリブルしながら移動する」といった複数の動作を組み合わせた動きが

できるようになります。

低学年におけるもう一つの改訂ポイントは、「運動遊び」など、「遊び」という文言が入ったことです。多様な体の動きを楽しみながら身に付けておくことは、その後自分でスポーツを選択し、生涯に渡って楽しむための土台となります(図3)。

かつて、子どもは遊びを通して基礎的な体の動きを習得していました。今は外遊びが少なくなり、自然に身に付けられません。走ろうとしてみずいて転んだり、転んだときにとっさに手を着けずに顔面に怪我をしたといったことも、基礎的な身体能力がないことから起きています。

また、運動をする子と全くしない子の二極化が進んでいるといわれていますが、普段から運動をしている子どもだからといって安心はできません。サッカー、水泳、野球などある一つの種目だけに特化して運動していることが多く、例えばボールを蹴ることはできても、ボールを投げられないことがあるのです。

いろいろな運動を楽しみながら経験させ、生涯に渡って運動を続けていく基礎づくりをすることが、子ども時代、特に低学年では大切です。

図2 体づくり運動の学年ごとの違い

低学年	中学年	高学年
体ほぐしの運動		
多様な動きをつくる運動遊び	多様な動きをつくる運動	体力を高める運動

図3 体育科の領域構成

学年	1・2	3・4	5・6
領域	体づくり運動		
	器械・器具を使つての運動遊び	器械運動	
	走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動
	水遊び	浮く・泳ぐ運動	水泳
	ゲーム		ボール運動
	表現リズム遊び	表現運動	
	保健		

出典/ 図1-①③ 文部科学省「小学校学習指導要領解説 体育編」(2008年6月)
 図1-② 文部科学省「各教科等の改訂案のポイント」(2008年2月)
 図2、3 文部科学省「小学校学習指導要領」(2008年3月)を基に、中村准教授が作成

図1 小学校「体育科」改訂のポイント

1
 基礎的な身体能力を身に付け、運動を豊かに実践していくための基礎を培う観点から、発達の段階に応じた指導内容の明確化・体系化。

2
 子どもの体力低下、運動習慣の二極化傾向の指摘を踏まえ、「体づくり運動」を低学年から規定。

3
 健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う観点から、中学校の内容につながる系統性のある指導ができるよう健康に関する内容を明確にし、指導の在り方を改善。

〈体づくり運動の指導案〉
**体を動かす楽しさを
 遊びの中で感じさせる**

体づくり運動でお薦めの指導例を紹介します(図4)。もちろん、これ以外にも先生ご自身の子どもころを思い出し、いろいろな運動遊びを組み立ててみてください。

体づくり運動はさまざまな動きを子どもに身に付けさせることを目的としています。最も大切なのは「体を動かすのは楽しい」「面白い」と子どもに感じさせることです。ですから、低学年では遊びの要素をふんだんに取り入れるのがポイントです。そのためには、次のような観点を取り入れるとよいでしょう。

一つは、子ども自身が工夫したり、自発的に考えたりするようにしておくことです。例えば「ものを遠くに投げる」といった運動を身に付けさせたいとしたら、「遠くに投げるための最適なフォーム」を一から教えるのではなく、「ボールをあお的(標的)

図4

指導案 2

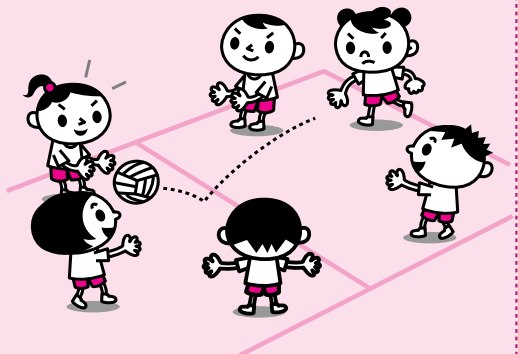
プレルボール

1 3~4人くらいのチームを2つ作り、バレーボールのコートに入る。

2 相手から来たボールをワンバウンドさせ、ボールを打ち返す。バレーボールのようにボールを敵陣に落として2バウンド以上させると、点数が入る。

ポイント

- コートの中のどの子どももボールに触るように、コートの中で1人ずつ守備範囲が持てるくらいの人数にする。「3回で相手コートに返す」のではなく、「全員が1度は触った上で返す」など、ルールを変更してもよい。
- ネットなしで、コートの中央にラインを引くだけでよい。中学年以降は、ネットを低めに張ると難易度が高まる。



指導案 1

しっぽとり

1 6人中、1人が鬼(オフェンス)となり、5人は前の人の腰を持ち、1列になる。列の先頭の人为主に守り(ディフェンス)。

2 鬼は列の一番後ろの人にタッチすれば勝ち。守り役は、両手を広げ、列の一番後ろの人に触れられないように守り、列はそれについていく。列の腰を持つ手が離れてしまっても鬼の勝ち。

ポイント

列を構成する人数を増やしたり、少なくしたりするだけでも、難易度や面白さが変わる。



「体づくり運動」のワンポイントアドバイス

ルールの変更を子どもに任せ、より面白くなるように考えさせる。ただし、鬼が負け続れたり、チーム編成が偏りすぎたりしないよう、必要に応じて教師がルールを調整する

に向けて投げてみよう」と、動きを身に付けるための場をつくり、子どもが「頑張ったに当たって」「どうすればうまくいくだろう」と自発的に工夫して取り組めるような授業計画を立てるのです。

図4で紹介した「しっぽとり」でも、同様です。列の先頭の守り役が鬼を後ろに行かせない役割をしますが、列につながっている子どもにも、どうすれば素早く動けるのか、鬼に守りを突破されたときにどのような防御策を講じるとよいのかと考える場面がたくさんあります。

二つめは、ルールを子どもに合わせて変えることです。バレーボールなどもルールを変えれば、低学年からでも楽しむことができます。「このスポーツはこうすべきもの」といった既存の枠組みにとらわれず、子どもの発達段階に応じて楽しめるものに変えればよいのです。

より面白く運動するために、ルールを変えてもよいでしょう。その際、「どうすればもっと面白くなるかな」「みんなが面白く思えるようなもつとよいルールはないかな」と子どもに考えさせ、自分たちで決めさせることです。子どもは自発的に「こうし

指導案 3

赤と白

1 クラスで2人1組をつくる。また、1人、号令を出す係を決める。2人組のどちらかを「赤」、もう1人を「白」と決めておく。

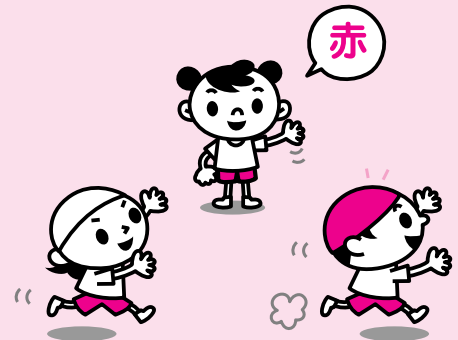
2 2人は向かい合い、互いに手を伸ばして指先が触れ合うくらいの距離で離れる。

3 号令係が「赤」と言ったら赤の人が逃げ、白の人が追い掛ける。「白」と言ったら逃げる側と追う側が逆転する。

4 逃げる側が3秒以内につかまったら、追い掛ける側の勝ち。つかまらなかったら、逃げる側の勝ち。

ポイント

「赤!」などの号令に、「青!」などとダミーを交えることで、難易度が上がる。チーム分けを赤白の代わりに「奇数」「偶数」などとし、号令を「3+4」など複雑にすると、より面白くなる(3+4=7なので「奇数」の人が逃げる)。



てみよう」と考え、運動の楽しさをより感じることが出来ます。また、工夫の余地を残すことは、仲間とのコミュニケーション能力を培うことにもつながります。子どもが面白いと思える工夫をしていくことによつて、休み時間などでも「あれ、やってみよう」となつていったらよいですね。

今後求められること 体づくりの重要性を 保護者に認識してもらおう

体育の授業時間だけで、子どもの体の問題をすべて解決することはできません。まずは、保護者に子ども

が体を動かして外遊びをする重要性を理解してもらふ必要があります。保護者の関心は学力の向上に偏っているようですが、体力は人間の活動の源です。学力向上にもつながる「意欲」や「気力」といった精神面の充実にも大きくかわることを説明しましょう。

子どもが仲間同士で外遊びをするのが一番よいのですが、実現は難しいと思われまふ。そこで、親子で体を使って遊ぶことを提案してみはどうでしょうか。授業参観などで親子が一緒に遊ぶ機会を設けてもよいかもしれません。テレビやゲーム機との付き合い方を見直すために、月

1回の「ノー・テレビ・デー」を学校を挙げて推進するなど有効です。子どもの体力・運動能力の低下を食い止めるには、次のようなことが大切です。

- ① 体の動きの習得と運動量の増大を目指す
- ② 食生活や早寝早起きなどの生活習慣を整える
- ③ 体力づくりに対する大人の意識を変える

何よりも重要なのは③「大人の意識を変える」ことです。学校だけでなく、家庭や地域も一緒になつて子どもの体づくりの問題に取り組むことが必要とされているのです。

Hop!
Step!
小学校英語!

実践事例

大阪府千早赤阪村立赤阪小学校 大門賀子先生

あいづち表現を用いて
コミュニケーションの
楽しさ、大切さを体験させる

赤阪小学校では、子ども同士の「コミュニケーション活動を中心とした英語活動を
全学年で週1回行っている。英語の時間だけでなく、
日常生活にも生かせる対話の仕方を指導しながら、
子どもが「コミュニケーションの楽しさ」を体験させている。

英語活動が上手な
教師から見いだした
「担任の五つの役割」

大阪府唯一の村である千早赤阪村。
村内の幼稚園と小学校がALTを招
いて英語活動を始めたのは10年前の

ている。

長年、英語活動を通して子どもの
姿を見つめてきた大門賀子先生は、
英語活動で子どもを盛り上げるのが
上手な教師の共通点に気づいた。そ
れらを整理したのが次の五つだ。こ
れらは教師自身の英語能力とは関係
がないという。

① Show (モデルになる)
うまくなくてもよいので、教師自
ら積極的に英語を話し、ALTと
かわる姿勢を見せるなど、話者・
学習者としてのモデルになる。

② Encourage (励ます)
子どもは英語を話すことへの不安
が大きいので、失敗を恐れないよ
うに繰り返し励ます。

③ Accept (認める)
発言やジェスチャーなど、子ども
の表現はまず喜んで受け止める。
間違っていた場合は、あとからさ
りげなく直す。

④ Praise (褒める)
少しでも褒められるポイントがあ
れば、大げさに褒める。

⑤ Appraise (評価する)
学習を正しく評価し、子どもが次
の活動に意欲的に取り組めるよう
にする。



千早赤阪村立赤阪小学校
大門賀子
Daimon Noriko
4学年担任、英語活動担当

最後の「Appraise」で行う評価は、
成績を付けることが目的ではない。
大門先生は次のように説明する。

「活動の中心は歌やゲームなどで、
英語を楽しむことが目的です。子ど
もは活動を通じて、英語をもっと『知
りたい』『理解したい』といった向上
心を持ちます。活動の成果を評価し
て、そうした気持ちを満たしてあげ
ると、自信や意欲が高まり、英語が
更に好きになります」

評価は必ずしも教師だけで行う必
要はない。大門先生が取り入れる評
価方法の一つは「What I can do」
という自己評価カードだ(図1)。例
えば、2年生のカードには「あいさ
つや曜日が言えます」「好きな色を言
えます」などの項目が並び、それぞ
れチェックボックスがある。子ども
自身に項目をチェックさせ、達成感
を抱かせる。どの学年でも項目のレ
ベルを低めにし、より多くの子ども
に自信を付けさせている。

ことだ。小さな村であるため、仲間
うちのコミュニケーションが多くな
りがちな子どもに、さまざまな文化に
触れるきっかけをつくりたいと考え
た。以来、英語活動は村の教育の特
色となり、現在、赤阪小学校では、全
学年で週1回、ALTを交えた30分
の活動を行い、加えて3年生以上は
週1回15分の担任のみの活動も行っ

「聞き上手」にさせ 日常生活に必要な かわり合う力を付ける

大門先生は、「英語活動は、どの教科にもましてコミュニケーション能力を育てるのに適しています。活動ではその特徴を最大限に引き出せるようにしています」と話す。

特に心がけているのは、子ども同士の英語による情報交換だ。活動では、友だちの好きな食べ物や色、動物、行きたい国、将来の夢……と、さまざまな質問をし合う。こうした会話を通じ、友だちをより深く理解し、それまで話さなかった友だちとも言葉を交わし、コミュニケーション

の楽しさに気づいていく。質問に答えていくうちに、自分自身を表現するのが好きになり、自己肯定感が育まれていく利点もある。

「聞き上手」になることの大切さも指導する。「相手の表現に対して反応しないのは失礼なことなんだよ」と繰り返し伝え、初めは「Me, too.」「I see.」といった簡単な言葉を教える。それらに慣れてきたら、「コメントワードシート」という約20種類のあいづち表現をイラストと共にまとめたシート(図2)を使って指導する。子ども一人ひとりに配り、教室にも掲示して、積極的に使うように呼びかける。

「だれかが発表しても、まわりが単に拍手をするだけなら、活動は盛り上がりません。『Good Job!』『Super!』など称賛や励ましの言葉をかけることによって、クラスに温かい雰囲気が生まれ、子どもは積極的に英語を話そうとします」(大門先生)

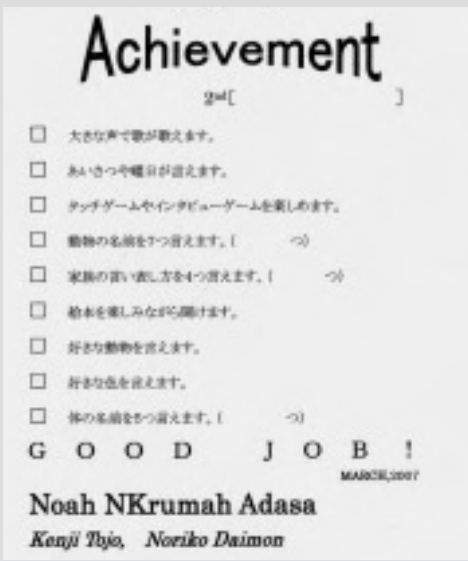
大切なことです。英語活動を通して身に付いたコミュニケーションの基本は、他教科や日常生活にもよい影響をもたらします」(大門先生)

同校の英語活動は、子どもの不安を取り除き、英語が好きになる指導に徹している。低学年では、一切文字を教えず、歌やゲームなどを通してヒアリングを重視する。中学年になると、アルファベットに多少親しませるが、教師の発話を繰り返すといった英語を「真似る」活動が中心だ。こうしてアルファベットに対する好奇心を高めていき、高学年で徐々に文字を教える。更に、「自分の思いを伝える」活動も増やしていく。例えば、「How are you?」への返答として「I'm fine.」という決まり文句だけでなく、「I'm hungry.」「I'm happy.」と気持ちを自由に表現するように指導する。

こうした活動を通じ、同校では英語の学習を生涯に渡って続けられる意欲を育みたいと考えている。

「中学校で英語のテストや勉強で苦労しても、英語を嫌いにならず、『もっと頑張ってみよう』と思えることが学習を続ける上で大切です。その土台づくりが小学校の英語活動の役割の一つだと思います」(大門先生)

図1 “What I can do!” (2年生用)



2年生用の自己評価のチェックシート。9つの評価項目があり、できたかどうかを授業の終わりに自分でチェックする

図2 コメントワードシート(一部)



「コメントワードシート」には、会話の中でよく使う約20種類のあいづち表現がまとめている

大門先生が提案する授業①

「衣服に関する言葉」を学ぶ (高学年)

- 目標
 - ・英語で衣服の名前を言う
 - ・英語で自分の好きな服装を紹介する
- 扱う表現
 - ・What do you want?
 - ・I want a ~.
- 準備するもの
 - ・ワークシート(衣服のイラストとそれぞれの英単語が表記された表)
 - ・買い物カード(色付きの衣服のイラストが描かれた20枚程度のカード)
 - 各グループに1組、および黒板掲示用を用意する
- 既習の内容
 - ・発表に対してのコメントの言葉("Oh, nice." "Good!" "I see."など)

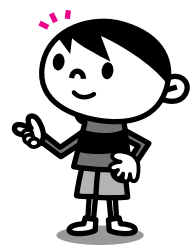
3 衣服に関する言葉の練習

15分

教師が"I want a OO(T-shirt, dress...etc.)."と言ったら、子どもは各々のワークシートの中の該当するイラストを指さすゲームを行う

1 ALTとのジェスチャーを交えたデモンストレーションでルールを理解させる

Teacher "Look at our demonstration."
ALT "I want a OO."
Teacher "Here you are."
ALT "Thank you."
と言いながら、黒板に掲示したワークシートを拡大したものの中で該当するイラストを指差す



2 ゲームに慣れてきたら、教師に対して、全員またはグループごとに"What do you want?"と尋ねさせて、教師が"I want a OO."と答え、同じ活動を続ける。子どもを指名して"I want a OO."を答えさせたり、"What do you want?"と言わせたりするなど、表現に十分に慣れさせる

- point 3 ●慣れてきたら、絵の番号を英語で答えさせたり、隣同士で競争させたりして、学習を発展させる。
- 既に"good" "nice"などの形容詞を子どもが理解している場合、教師は"good pants" "nice shirt" "cute hat"などと表現してもよい。

1 イントロダクション

3分

1 英語で挨拶をする

Teacher "Good morning, everyone!
How are you?"
Students "I'm fine, thank you."
Teacher "How is the weather?"
Students "It's sunny."

- point 1 ●天気の表現に慣れる前は、"Is it sunny?"と尋ね、"Yes/No."で答えさせてもよい。

2 デモンストレーション

5分

1 本時の内容に関する担任とALTの会話を聞き取らせて内容をイメージさせる。子どもの理解度を確かめながら、3回ほど聞かせる

"Let's go shopping next Sunday, shall we?"
"OK. That's a good idea."
"What do you want?"
"I want a white T-shirt and blue jeans."
"Oh, nice."

- point 2 ●すべてを聞き取れなくてもよい。聞き取れた言葉から推測させて、学習のイメージを膨らませることが大事。
- 担任1人の場合は、人形等を使うとわかりやすい。
- 慣れないうちは「何色のTシャツが欲しいと言っている?」など日本語で質問し、聞き取りの観点を示したり、何の話をしているのかをあらかじめ日本語で伝えたり、衣服のイラストが描かれたカード等を示しながら会話する。

point 4

- 高学年には服装に興味を持ち始める子どもが多い。自分らしさを表現する楽しさが学習意欲を引き出す。
- ゲーム中は教師が教室を回り、“It’s nice. You have a T-shirt!”などの声かけをして、楽しい雰囲気づくりを心がける。
- 実際の自分の服装について紹介する活動に発展させてもよい。

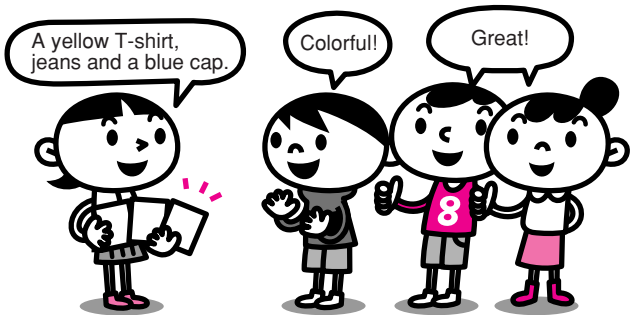
4

買い物ゲーム

※3「衣服に関する言葉」の練習を十分に行った後に行う。子どもの理解に応じて次回以降の時間で扱ってもよい

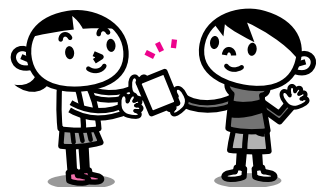
20分

5 やりとり慣れたら、色を加えた表現を使う(色の表現が既習の場合)



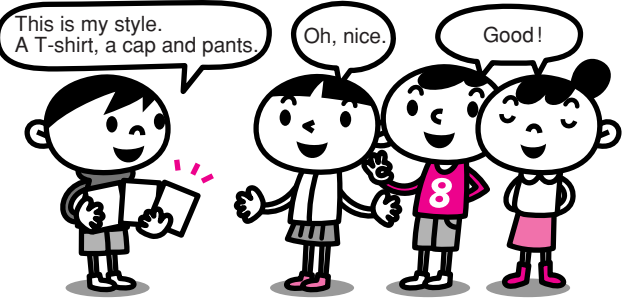
6 4の内容を復習する。数人を前に出させて、クラス全員の前で発表させる

- 1 4人で1グループをつくり、それぞれに1組の「買い物カード」を配る。カードは伏せて机に並べる。グループ内で買い物をする順番を決めておく
- 2 1番目の子どもがカードを4枚めくる。ほかの子どもは“What do you want?”と尋ねる。1番目の子どもは4枚の中から1枚選んで、“I want jeans.”などと答える。2番目の子どもが“Here you are.”と、そのカードを手渡し、1番目の子どもは“Thank you.”と言って受け取る



- 3 2番目の子どもが次のカードをめくり、4枚になったカードを使って同じように買い物を続ける。3番目、4番目の子どもも同様。1人につき4、5枚のカードが行き渡ったところで、ゲームは終了

- 4 各自集めたカードの中から3枚を組み合わせるグループ内で紹介し、ほかの子どもが感想を言う



5

終わりの歌

2分

終わりの歌を歌い、教師や友だちに“Thank you.”と言って活動を終了する

point 5

- 終わりの歌は、比較的簡単で、心に残りやすいメロディーの歌を選び、最後はリラックスして終わる習慣を付けるとよい。
- 大門先生お薦めのホームページ「みやげ教授とみんなでえいごうた」
<http://eigouta.com/index.php>

大門先生が提案する授業② 「外国の国名や特徴」を学ぶ (高学年)

- 目標
 - ・英語で国名を言う
 - ・英語で自分の行きたい国の名前と理由を言う
 - ・友だちの行きたい国やその理由を知る
 - ・いろいろな国に興味を持つ
- 扱う表現
 - ・Where do you want to go? ・I want to go to~.
- 準備するもの
 - ・世界地図(英語で国名を書いた紙を貼るなど、学習対象の国名がわかるように)
 - ・国旗カード(10か国ほど用意。各国A4サイズの黒板掲示用)
 - ・国旗カードの国の有名な観光地や食べ物などのイラストが描かれたカード
- 既習の内容
 - ・発表に対するコメントの言葉("Oh, nice." "Good!" "I see."など)

2 言葉の練習

15分

1 用意しておいた世界地図を黒板に貼る。国名を指し、子どもに国名を答えさせる練習を繰り返す。慣れてきたら、教師が国の特徴を言い、国名を当てさせる



2 "Where" "I want to go to ~"の意味を日本語で説明したあと、教師が子どもに行きたい国を質問し、答えさせる。最初は教師が国名を指さして全員に言わせる。慣れてきたら子ども同士をペアにして、同じやりとりをさせる



1 イントロダクション

3分

1 英語で挨拶をする

Teacher "Good morning, everyone."
Students "Good morning, Mr.Suzuki. How are you?"

Teacher "I'm fine, thank you. Please ask your friends, How are you?"

列の先頭の子どもが自分の列の友だちに聞いて回る。子どもからその結果を聞き、みんなの様子を伝える

Teacher "Masaki is sleepy." "Haruko is happy."
伝え終わったら、レッスンに入ることを伝える

Teacher "That sounds great. Let's enjoy today's lesson, shall we?"
Students "Yes, let's."

- point 1
 - 教師はアイコンタクトや笑顔を大切にする。
 - 慣れてきたら、日直に先生役をさせるとよい。
 - 子どもが聞き合う間に、先生も数人に"How are you?"と尋ねる。笑顔で張り切っている子どもは、"Akira looks very happy. Miho's smile is wonderful."などと褒める。
 - 「今月の歌」として特定の歌を歌う方法もある。速すぎず、親しみのある歌(「Good Morning to You」「エーデルワイス」など)から選ぶ。慣れるまでは、聞くだけ、あるいはわかりやすい箇所だけを歌わせるなどして無理をさせない。
- point 2
 - 日本語になっている国名を用いるとわかりやすい(アメリカ、イタリア、オーストラリア、エジプト、インド、ブラジルなど)。国としては馴染みがあるけれども、日本語と英語では呼び方の異なる国を交けてもよい(中国、ドイツ、イギリス、韓国など)。
 - 2の表現は、後のインタビューゲームで使うため、よく聞いてたくさん言う練習をする。

- point 4**
- 多くの友だちに聞こうとするあまりに、会話が雑にならないように気を付けるよう指導する。
 - アイコンタクトやジェスチャーなど、言葉以外のコミュニケーションも大切にす。
 - 自分と同じ国に行きたい場合は“Me, too.”、違う国の場合は“I see.” “That’s nice.”などのコメントを交えながら話すように指導する。

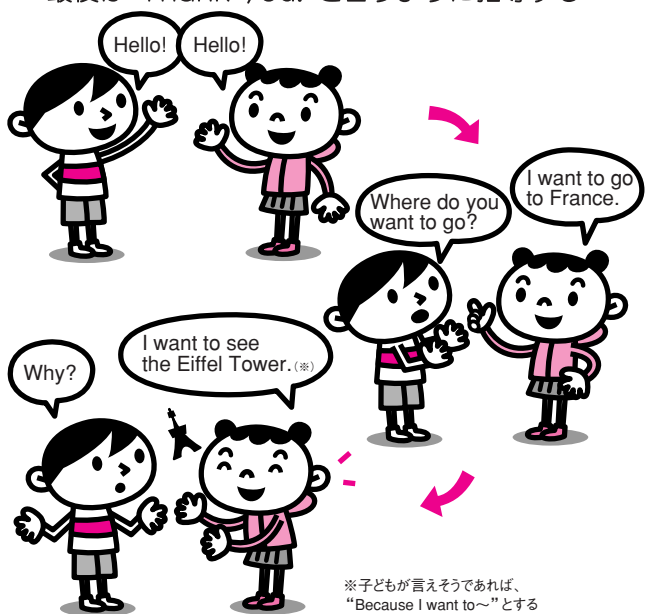
- point 3**
- グループごとに順番に繰り返し、行きたい国とその理由を伝える表現に慣れさせる。
 - 4の理由を伝える表現は、“see” “eat” “play” “enjoy”などの中から既習の単語を用いる。

4 インタビューゲーム

※3「国めぐりゲーム」を十分に行った後に行う。
子どもの理解に応じて次回以降の時間で扱ってもよい

15分

- 1 隣同士で国めぐりゲームで使った表現を用いて、行きたい国やその理由を聞き合う。挨拶から始め、最後は“Thank you.”と言うように指導する



- 2 教室を回って友だちに質問をし、だれがどの国に行きたいかをノートなどに書き込む
- 3 最後にALTと教師がやりとりをして終わる

Teacher “Where do you want to go?”

ALT “I want to go to Italy. I want to eat delicious pizza.
Good-bye, everyone. You did a great job today!”

Teacher&Students

“Thank you (ALTの名前).

See you next time!”

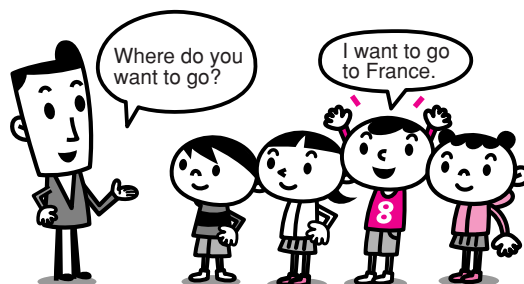
3 国めぐりゲーム

※2「言葉の練習」を十分に行った後、
子どもの理解に応じて次回以降の時間で扱ってもよい

12分

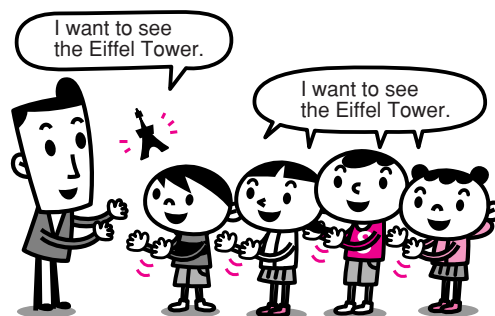
- 1 国旗カードと、各国の代表的な観光地や食べ物のイラストが描かれたカードを黒板に掲示する。子どもは4人1組のグループに分かれる

- 2 教師は各グループに行きたい国を尋ねる。グループ内で相談してから答える



- 3 教師は“Why?”と理由を尋ねる。子どもには「エッフェル塔を見たい」などと、日本語または単語のみで答えさせる

- 4 理由が黒板のカードの中にあれば、“I want to see the Eiffel Tower.”など、“I want to”を用いて理由を答える表現を教え、グループ全員で繰り返し練習させる。1人ずつ、しっかり言えるようになったら、“Good job!” “Great!”などと褒め、そのカードを渡す



宮城県

仙台市

学力向上に向け、家庭学習ノートや教科担任制などを導入

仙台市では、中学校卒業から10年後の「25歳」での自立した姿をイメージした「自分づくり教育」を進めている。自立するための大きな要素の一つを学力と捉え、2006年度から「家庭学習ノート」や「小学校高学年基礎教科担任制モデル事業」などの学力向上策に力を入れている。



概略

■宮城県仙台市

人口約103万人の政令指定都市。東北地方の拠点都市として発展してきた。教育行政では、家庭、地域、学校、企業などによる「パートナーシップ」をキーワードに「学都仙台」づくりを進める。市立小学校123校、市立中学校63校。

【仙台市教育委員会】

〒980-8671 宮城県仙台市青葉区二日町1-1

TEL 022-214-8875（教育指導課）

URL <http://www.city.sendai.jp/kyouiku/index.html>

親子の対話を深める 「家庭学習ノート仙台」

仙台市教育委員会（以下、市教委）は、学校教育の重点施策や指導の重点をまとめた「杜の都の学校教育」を毎年策定し、公立学校の教師全員に配付している。2008年度版では「健やかな心と体の育成」「確かな学力の向上」「自分づくり教育の推進」を柱に掲げた。学校教育部教育指導課の庄子修課長は三つの柱の

意図を次のように話す。

「社会や家庭環境の変化もあり、仙台市でも子どもを学びに向かわせることが課題です。しかし、単に学力向上のみを目指すような施策では不十分。学習の基盤となる『健やかな心と体』、なぜ今、勉強するのかを子どもに考えさせる『自分づくり教育』こそが先決だと考えました」

市教委は「社会を支える25歳を目指す」をスローガンに、小中高12年間のカリキュラムを作成した。市教委がかねてから進めてきた起業教

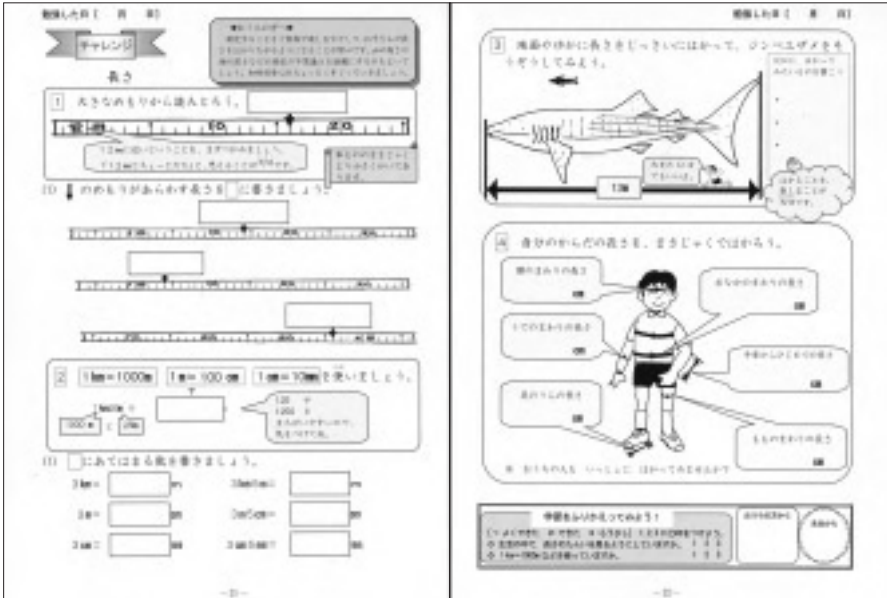
育と文部科学省が進めるキャリア教育を土台に、各学齢で必要な学習内容や学習姿勢を明らかにした。

「教室に『目指す子ども像』を掲げても、『目指す大人像』を示すことがあつたでしょうか。25歳は中学卒業後10年目でほとんどの子どもが社会に出ています。この年齢を共通の目安として自立した姿を思い描きながら、社会全体で子どもを育てていこうと考えています」（庄子課長）

「小学校段階では毎日机に向かう習慣の確立が大切です。その際に温かな家庭環境の中で保護者が子どもをしっかりと見守ってほしいと思い、作成しました」（庄子課長）

家庭で使いやすいよう、作成にはPTAも加わった。特徴は二つ。一つは「おうちの方へ」の欄だ。保

図1 家庭学習ノート仙台「いっしょに算数」

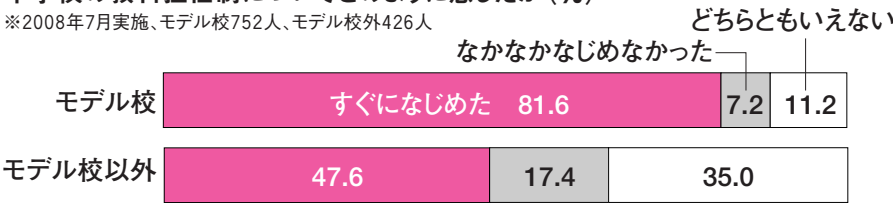


「おうちの方へ」では、測定について家庭でどんな話題を取り上げればよいのかを示している

図2 中1生への教科担任制についてのアンケート結果

中学校の教科担任制についてどのように感じたか (%)

※2008年7月実施、モデル校752人、モデル校外426人



ねらいは三つある。一つは授業の質の向上だ。同じ内容を複数回教えるため、教師自身が反省を踏まえながら授業力を高められる。これにより子どもの学力向上が期待できる。

06年度には、市内11の小学校の5、6年生を対象に「基礎教科担任制モデル事業」を始め、各校に1人、市費で非常勤講師を配置した。加配教員は特定教科を指導する「専科教師」ではなく、教師全員で時間をやりくりして、全員が何らかの「教科担任」を担う時間をつくり出すためのものだ。各校の事情に合わせて国語や算数のいずれか、または両教科で教科担任制とする。

教科担任制モデル事業で非常勤教師を加配

子がよくわかるようになった。子どもがよく学校の話をしてくれようになった」といった声が届いている。「これが親子のコミュニケーションのきっかけになればと考えています。保護者が子どもと向き合い、かわることが、子どもの心の安定につながり、ひいては学力向上の土台になると考えています」(庄子課長)



堀越清治
仙台市教育委員会
学校教育指導課
主幹兼教育課程係長



庄子修
仙台市教育委員会
学校教育指導課
指導課長

二つめは生徒指導の充実だ。複数の教師の目を通して、子どもの良い面や可能性を引き出そうというわけだ。学校教育指導課の堀越清治主幹は、教師の児童理解が進んでいると感じるといいます。「先生からは『学級担任ではなく、学年担任になれた』という言葉をよく耳にします。自分の学級だけでなく、学年の子どもについて職員室で話題に上るようになりました」

三つめはいわゆる「中1ギャップ」の解消だ。中1生へのアンケートでは、モデル校出身の生徒はそれ以外の生徒に比べてスムーズに中学生生活に馴染んでいるとわかった(図2)。「本市では毎年学力検査を実施し、施策の成果を検証しています。『全国学力・学習状況調査』の結果なども踏まえながら、より良い教育を模索していきます」(庄子課長)

護者が子どもにどのようにかかわればよいのかを単元ごとに簡潔に解説。算数の長さの単元では「お子さんが長さの測定に関心を持つよう、山の高さや湖の深さを話題にする」と具体的なアドバイスを盛り込む。特徴の二つめは「おうちの方から」の欄の大きさだ。印鑑を押すには大

きく、コメントをたくさん書くにはやや小さいスペースにした。庄子課長は、「共働き家庭などに配慮して、コメントを書く・書かない、どちらにも対応できる大きさにしました。このような細かい点についても保護者と議論を重ねました」と話す。保護者からは「学校での勉強の様

最新号およびバックナンバーの記事は、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトでご覧いただけます。
知りたいテーマ別に記事を検索できるようになっていますので、ご活用ください。

2008年 秋号

新学習指導要領へのアプローチ 第3回 「問題解決能力」を高める理科指導

新学習指導要領において、理科は、基礎的・基本的な知識や技能の定着と共に、「問題解決の能力」と「科学的な見方や考え方」の育成が求められている。日々の授業をどう変えればよいのか、学校事例などから探る。

2008年 夏号

新学習指導要領へのアプローチ 第2回 学びが深まる「算数的活動」

新しい学習指導要領では、算数は授業時数が大幅に増加し、「算数的活動」や「反復(スパイラル)」による指導の充実などが打ち出された。今後の算数の指導に求められるものとは何かを考える。

2008年 春号

新学習指導要領へのアプローチ 第1回 「言語活動」で広がる学び

2011年度に施行される学習指導要領で、「言語活動の充実」は各教科・領域等を貫く重要なポイントだ。学校の実践事例や、読解力の教育で注目を浴びるフィンランドでの取材から、指導方法のヒントを紹介する。

2008年1月号

データで読み解く新学習指導要領

過去10年間の学校現場の変化を踏まえ、新しい学習指導の在り方を考える。

2007年9月号

つながる「保護者」と「学校」

学校と保護者が協力して子どもを育てる大切さを改めて考える。

2007年7月号

教師がつながる「授業研究」

学校全体・教師個人が着実に力を積み上げられる授業研究の方法を探る。

2007年4月号

みんなで取り組む小学校英語

小学校の英語活動を実践するためのヒントを紹介。

2007年1月号

量から質へ——これからの学びを考える

調査から見えた学習量の回復を、豊かな学びにつなげる方法を探る。

2006年9月号

コミュニケーションが生まれる授業づくり

コミュニケーション能力育成の手法を、識者の対談や学校事例から探る。

2006年特別号

学力調査を指導改善に生かす

「全国学力・学習状況調査」のねらいや結果の生かし方について詳しく解説。

2006年4月号

「学校力」を生み出す学校評価

学校評価をうまく取り入れながら学校力を高めていく方法を、先進事例から考える。

ウェブサイトでは2003年度分から掲載しています。

編集後記

今回の特集を通じ、「『活用』は新しいことではない。『質の高い授業』をすればよい」というお話を多くの先生からうかがいました。未習の問題に「何とか解けるかもしれない」と挑戦する子どもたちを育てること、その授業づくりの大切さを改めて感じます。「質の高い授業」とは何か、そのためにはどうすればよいのか。次年度も引き続き考えていきます。(青木)

Benesse教育研究開発センターのアドレス

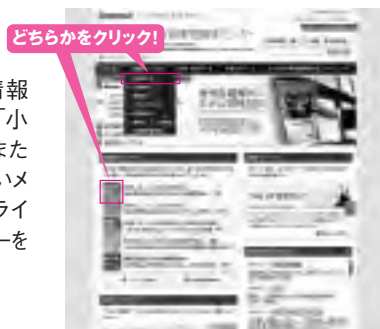
<http://benesse.jp/berd/>

または で

バックナンバー記事へのアクセス方法

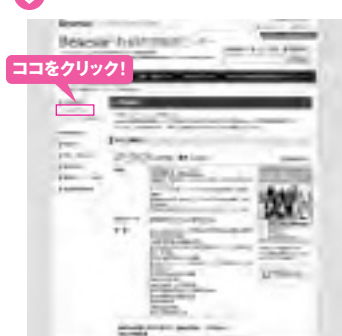
1

トップページの左側「情報誌ライブラリ」の下にある「小学校向け」のメニュー、またはトップページ上部の黒いメニューバー上「情報誌ライブラリ」プルダウンメニューをクリックします



2

画面が切り替わるので、画面左側の「小学校向け」の下にある「バックナンバー」の文字をクリックします



3

『VIEW21』のバックナンバーの目次が発刊年度ごとに表示されます。発刊年度の切り替えは、表紙写真の上にある各年度の文字をクリックします



*アクセス方法は08年12月現在のサイトを基にご案内しています

VIEW21小学版 2009 冬号 2009年1月9日発行/通巻第19号

発行人 新井健一
 編集人 原 茂
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション Benesse教育研究開発センター
 印刷製本 大日本印刷(株)
 編集協力 (有)ペンダコ
 執筆 柴崎朋美、中村陽子、二宮良太、山口慎治、山田清機
 撮影 荒川潤、川上一生、川本聖哉、中島トシハル
 イラスト タコリトモコ、山本重也、幸剛

お問い合わせ先 VIEW21編集部
 〒163-1422 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー22階
 電話 03-5371-1238

©Benesse Corporation 2009